

佐古村	同	大日寺	安登郡西分村	同	中之院
吾川郡伊野町	同	金蓮寺	幡多郡平田村	同	延光寺
長岡郡東豊永村	同	定福寺	西豊永村	同	豊樂寺
高岡郡佐川町	同	乗台寺			

愛媛縣

國分寺(越智郡櫻井村)律派

眞言律宗準別格本山たり天平以來數度の火難に罹りしも七重塔礎は今日尙現存せり縮旨院宣の教書等の重なる寶物多し中興第一世本性上人より現住に至るまで五十一世を襲ぬ。

石手寺(温泉郡道後郡)豊山派

和銅五年伊豫大領國興白山權現を勸請し神龜五年行基の開眼にて藥師如來の像を安置し勝寶七年に韋駄天の像を祀る弘仁四年に及て法相宗を眞言宗と改む天長八年前世の石を握りて生れ來れる人あり其石を當寺に納めたる故に舊名安養寺を改

て熊野山石手寺と稱す寛平三年權現宮拜殿新堂を建て熊野權現十二社を勸請し十六坊を寄附す天德二年當寺に始て傳法灌頂を行ひ永保二年勅に依て祈雨し鳥羽院の時勅願所となり護摩堂拜殿新堂鐘樓等を再興す其後數代の帝の歸依を受け永祿九年一部を焼失せり慶長六年加藤嘉明より二百石寄附せられ其後の頭守久松定直以來明治維新に至るまで久松家より供養を受けたるが明治維新に際し十二社權現を分離し大に衰廢せるを以て塔中四ヶ寺を合して新堂を本堂とし本堂を阿彌陀堂とせり現今本堂三重塔鐘樓門の四棟は保護建造物に列せらる中興より既に四十餘代を経たりと云ふ。

太山寺(温泉郡和氣村)智山派

瀧雲山護持院太山寺と稱し四國五十二番の靈場在昔用明帝のとき豊後の長者眞野なるもの海上風波に會し觀音の靈驗を受けて創立する所にして天平勝寶元年行基聖武天皇の勅を奉じて十一面觀音四天王を彫刻して納め孝謙帝の歸依もありしが後に後冷泉帝大悲像一體前々帝菩提の爲に納められ此嘉例を追ふて後三條帝堀川帝鳥羽帝崇徳帝近衛帝の六帝皆同帝の十一面觀音像を納め給ふ此六體今國寶に列

せらる。嘉元二年には河野新宮神主承營の願主として諸堂修繕あり、文明十七年には河野直通大檀那となりて營繕せり、天正年間福島正則の所領となるや、封戸沒收せられ、大に衰頹を來せるも、後加藤嘉明、松山城主松平家より歸依せられ、明治維新に及べり。中興戒滿より現住智全まで廿九世を経たり。

### 大寶寺

(温泉郡朝置村) 豊山派

本尊藥師如來は行基菩薩の作なり、文武天皇大寶元年角本長者の建立せし所にして、本堂の構造頗る古雅なり、兩度保存金下賜あり、木像阿彌陀如來及び同釋迦如來の兩軀は國寶に列せらる。

### 繁多寺

(温泉郡幸原村) 豊山派

本尊藥師如來行基菩薩作、天平寶字年間の開基にして、間月上人蒙古退治の祈禱を修して、功賞あり、元祿比より聖天の靈異を以て顯る。

### 出石寺

(喜多郡豊茂村) 御室派

此寺は觀音地藏の石佛地より現出せる故に名く、初めは雲峯山と稱せしが、後に金山と稱す、石佛最も靈威あり、數ヶ寺の末寺を有す、準別格本山たり。

### 大寶寺

(上浮穴郡菅生村) 豊山派

菅生山と號す、四國靈場第四十四番たり、本尊十一面觀世音、文武天皇の御代に至りて寺領數十町を賜り、堂宇坊舎を勅建せられたるが、後四百餘年を経て、仁平年間に炎燒し、後白河天皇保元年中に再建ありて、菅生山の御宸翰勅額を賜はり、皇妹を尼宮として、當寺住職御宣下ありたり、元祿年中、中興第一世雲秀より現住隆秀に至りて十七世を経たり、木造阿彌陀如來座像及び同釋迦如來座像は國寶に指定せらる。

### 岩屋寺

(上浮穴郡七川村) 豊山派

本尊は不動明王にして、四國四十五番の札所なり、此寺斷岩絶壁洞穴奇勝、伊豫第一の景と稱せらる。

### 金蓮寺

(伊豫郡岡田村) 智山派

玉松山十二光院と稱す、大同二年國司河野氏の開創する所、本尊藥師如來は海中出現の靈佛なり、寛喜三年後堀河帝の御腦あるや、中興明海上人之を祈念し、靈驗ありしを以て歸依淺からず、勅願道場となれり、中古同祿の災に罹り、寶什の大部分を焼亡したり、中興明海より既に四十餘世を経たり。

### 仙龍寺

(字摩村) 新立村 大覺寺派

法道仙人の開基、弘法大師修行の靈跡、金光山遍照院と號し、四國屈指の名利なり、弘仁六年大師自ら尊像を刻み、厄災消除の秘法を修せり、本尊は即ち大師自作の御影なりとす、寛永十五年尊性法親王四國巡拜の砌、靈跡の世に顯はれざるを嘆き、始めて寺號を賜ふ、今厄除、又は作大師或は四國の奥院等と稱して、香煙絶ゆることなし。

### 前神寺

(新居郡) 神戸村 御室派

四國第六拾四番靈場にして、石鐵山別當前神寺と稱せり、一千四百年前役小角の開基にして、弘法大師御出家前後に涉り難行苦行を勵まれし無二の靈地にして、護摩修行の根本道場と定められし淨地なり、三教指歸或時跨石峯絶糧、轉輯たりとあるが如し

されば古來皇室の御信仰厚く、桓武天皇は當國の守護に命じて大伽藍を創造し、親ら院號を下して金色院と稱し、勅願所と定め給ひ、又文徳天皇仁壽元年同じく當國の守護に命じて、同寺を興營し給ひ、次で順徳、後鳥羽、高倉の諸帝は經卷を奉納し給ひ、後醍醐天皇は地藏尊を奉納し給へり、又武臣の尊信深くして、河野氏及土居得能氏は賊徒誅滅の大願成就の爲、藏王權現の御銅像を献納し、福島正則氏は豊臣氏の命に依り堂宇を再建し、加藤嘉明氏は參籠祈願三月に及びし事あり、降て西條藩主は申に及ばず、四國九州中國の大小名は擧て武運長久の祈願處と定められたり、然るに明治維新の變遷に際し、災火に罹かり、方丈、客殿等焼失せり、舊地は其の際神社となり、約壹丁西依りて不得止現今の所に移りたるものなり、本尊は上品上生の阿彌陀如來にして、役行者は業強難化の衆生濟度利益の爲めに忿怒身即ち石鐵山金剛藏王大權現の御尊像、御感得の砌り、其の御尊像をも安置し、御本地佛は釋迦如來なり、五拾年目に御靈體の御開帳を恒列と定む、尙西條藩主の勸請せし東照宮あり、現今大町村に奉祀する西條神社、明治五年同所に遷祀す、即ち之なり、因に當寺の什寶の主要なるものを記すれば、

弘法大師御像

真言宗新義開祖興教大師ノ筆

紅顏梨彌陀如來

巨勢金岡ノ筆

般若心經  
 六字名號  
 夜梅  
 金剛薩埵密書  
 愛染明王  
 金泥ノ法華經  
 紀州公御願文  
 地藏尊厨子入  
 出山ノ釋迦  
 一休和尚ノ書

弘法大師ノ御眞筆  
 同  
 王光章ノ筆  
 鳥羽僧正ノ筆  
 唐王摩詰筆  
 紫式部ノ筆  
 箱入  
 明智光秀ノ守本尊  
 一 苜萱道心ノ筆

其他の名刹

古義

宇摩郡新立村 大覺寺派 仙龍寺  
 準別格本山なり。

三島村	同	興願寺	川之江町	高野派	宅善寺
天満村	同	井源寺	小富士村	大覺寺派	晚壽院
蕪崎村	高野派	五智院	土居村	御室派	延命寺
關川村	高野派	西福寺	同	同	西蓮寺
上山村	同	安樂寺	別子山村	同	圓通寺
金生村	同	如意輪寺	同	同	光嚴寺
妻島村	同	定蓮寺	中之庄村	同	持福寺
寒川村	同	新長谷寺	豐岡村	同	寶相寺
津根村	同	三福寺	柘柏村	大覺寺派	善法寺
新居郡神戸村	御室派	萬頂寺	金子村	高野派	圓福寺
大町村	御室派	金剛院	加茂村	高野派	大福寺
埴生村	同	法泉寺	大保木村	御室派	極樂寺
玉津村	同	西福寺	同	同	寶連寺
金子村	高野派	宗像寺	同	同	圓福寺
多喜濱村	同	安養寺	同	同	明正寺

密教名刹

立花村	醍醐派	附屬寺	同	常明寺
鈍川村	同	淨土寺	同	醫王寺
今治町	醍醐派	正福寺	大覺寺派	龍岡寺
吉井村	高野派	德藏寺	大覺寺派	光林寺
同	醍醐派	成願寺	同	密乘院
福岡村	同	正善寺	御室派	久妙寺
櫻樹村	高野派	光明寺	同	淨明寺
同	同	神宮寺	同	光明寺
德田村	醍醐派	金仙寺	御室派	道安寺
同	同	十地院	同	醫王院
小松町	高野派	清樂寺	御室派	圓滿寺
周桑郡庄内村	同	實報寺	醍醐派	興隆寺
同	同	萩生寺	御室派	正法寺
飯岡村	御室派	王至森寺	高野派	阿彌陀寺
泉川村	同	隆德寺	同	神宮寺
船木村	同	神宮寺	同	

同	同	淨土寺	同	無量寺
同	大覺寺派	光藏寺	同	正善寺
同	同	竹林寺	高野派	滿願寺
富田村	大覺寺派	眞光寺	同	歡喜寺
魚鳥村	同	道福寺	御室派	海南寺
大山村	同	福藏寺	同	高龍寺
溫泉郡正岡村	醍醐派	光德寺	高野派	醫王寺
朝美村	同	眞光寺	同	香積寺
同	同	道音寺	醍醐派	十輪寺
河野村	同	永福寺	高野派	本願寺
同	同	西明寺	同	西念寺
同	同	法圓寺	御室派	永德寺
久米村	同	圓佛寺	同	惣持寺
同	同	瑞安寺	同	長善寺
栗津村	高野派	聖臨寺	御室派	好樂寺
密教名刹				
上朝倉村	同	無量寺		
下朝倉村	同	正善寺		
同	高野派	滿願寺		
同	同	歡喜寺		
宮窪村	御室派	海南寺		
龜山村	同	高龍寺		
川上村	高野派	醫王寺		
南吉井村	同	香積寺		
難波村	醍醐派	十輪寺		
喜多郡河邊村	高野派	本願寺		
三善村	同	西念寺		
大洲村	御室派	永德寺		
新谷村	同	惣持寺		
豐茂村	同	長善寺		
北宇和郡吉野生村	御室派	好樂寺		

丸穂村	大覺寺派	龍光寺	成奴村	高野派	正法寺
南宇和郡城邊村	同	佛眼院	東宇和郡俵津村	大覺寺派	地藏院
西宇和郡伊方村	御室派	法通寺	宮内村	同	眞願寺

新義

溫泉郡潮見村	豐山派	蓮華寺	素鷲村	同	大音寺
朝美村	同	寶積坊	興居島村	同	觀音寺
味生村	同	常福寺	古三津村	同	儀光寺
味生村	同	淨明寺	久米村	同	淨土寺
石井村	同	善寶寺	拜志村	同	法蓮寺
三内村	同	金毘羅寺	川上村	同	上福寺
坂本村	同	善城寺	久米村	同	圓福寺
坂本村	同	西林寺	北吉井村	同	淨瑠璃寺
北井村	同	萬福寺	越智郡菊間村	同	遍照院
乃方村	同	延命寺	同	同	乘禪寺

波方村	同	長泉寺	溫泉郡和氣村	智山派	圓明寺
東中島村	同	長隆寺	同	同	長善寺
坂生村	同	長樂寺	睦野村	同	玉善寺
餘土村	同	善喜寺	生石村	同	安樂寺
雄祥村	同	藥師寺	朝美村	同	福泉寺
伊豫郡中村	同	寶珠寺	同	同	稱名寺
原町村	同	理生院	南伊豫村	同	正圓寺
原町村	同	永代寺	南伊豫村	同	傳宗寺
松前村	同	宗通寺	岡田村	同	教明寺
南伊豫村	同	本願寺	松山市	同	觀音寺

香川縣

香西寺(香川郡中 芝原村) 大覺寺派

寶幢山地藏院と號す、天平十一年行基菩薩の創建する所なり、本尊は地藏菩薩にして、弘法大師の作なりと傳ふ、天慶二年勅に依りて讚岐四ヶ談議所の一に加へらる、平治

密教名刹

年間堂塔衰頽せしを貞應元仁の交、將軍頼經の命を受けて修造し、舊稱勝賀寺を改めて香西寺と號す、天正年中兵火に罹りしを慶長年中國主生駒近規之を造營し高福寺と改む、萬治年中又火災に罹りしを寛文九年また堂宇を建立して今の寺號に復せり。

### 大寶院(香川郡宮村)御室派

神毫山一宮寺と稱す、大寶年中の創基なる故大寶院と稱すといふ、古より一宮神社の別當たるを以て、一宮寺と號せしが、延寶七年高松藩祖松下頼重別當神主を分ち、本寺を墳寺と稱せしめたりといふ、境内に三基の石寶塔あり、中を孝靈天皇、左を百襲姫、右を五十狹芹彦尊と云ふ。

### 善通寺(多度郡善通寺町)小野派

五岳山善通寺誕生院と云ふ、弘法大師御誕生所を以て著名なり、寺後に五岳あり、屏風狀をなして灣を廻すを以て、一名屏風ヶ浦と稱し、弘法大師の父君善通公其宅を寺となしたるを以て善通寺と名く、本尊は藥師如來にして、伽藍は壯大雄偉なり、今の大師堂の裏は弘法大師の御産家のありし所と傳ふ、高野山道範流されて漸く此寺に居り。

曆應年中宥範此寺を中興し、隨心院門跡と、相法流となりたり、寶物には瞬目御影等有名なるものなり。

又當寺の寶物中明治三十四年三月二十七日内務省告示第二十號を以て國寶の資格あるものと定められたるは左の如し。

- 甲種四等繪畫紙本淡彩一字一佛妙法蓮經序品 一卷
  - 同 彫刻木像地藏菩薩立像 一軀 甲種四等同木像吉祥天立像 一軀
  - 同 三等美術工藝金銅錫杖 傳空海將來 一本
- 其他寺寶の重なるものは左の如し。

- 一 弘法大師筆大方廣佛華嚴經第七十六卷 一卷
- 一 同大師筆鼠跡心經 一卷
- 一 同大師筆聖德太子御影 一軸
- 一 傳教大師筆觀佛三昧經第五第六卷 一卷
- 一 普賢院舊藏本大孔雀明王經 三卷
- 一 牛庵筆稱讚淨土佛攝受經 一卷
- 一 弘安三年公文職隨心院門跡下知狀 一通

外嘉祿元年應宣一通承元三年應宣一通建治二年祈禱狀一通建長四年五年文書二通弘長三年文書零本一通明德長祿永和寛正文書等五通細川頼之文書一通等添之

海岸寺(多度郡白方村)大覺寺派

納經山迦毘羅院海岸寺と稱す、弘法大師の誕生所として善通寺と爭論せしが、文化二年遂に此寺は弘法大師初因縁の地と定めらるゝに至る、本尊は弘法大師童形の像にて四天王待衛し、左右には御兩親の像を安ぜり、其近傍に大師の母公の御住所と傳ふる佛母院胞衣塚あり、童堂は泥地藏菩薩を安んず、昔は隆盛なりしが、天正年中長曾我部の亂に灰燼となりたり。

出釋迦寺(仲多度郡吉原村)小野派

昔弘法大師佛道を此山に修め、釋尊の出現を祈りしに、七日に至るも現はれず、是を以て身を巖下に投ず、釋尊忽ち現はれて之を救ふ、因て其谷を名づけて捨身壑と云ひ、其山を我拜師山と云ふ、是に於て大師寺を建て、出釋迦寺と稱す、本尊は釋迦如來、及虚空藏菩薩、俱に大師の作なりと云ふ。

曼荼羅寺(仲多度郡吉原村)小野派

我拜師山延命院と號す、弘法大師の創立に係れり、本尊は座像大日如來にして、大師の作なりと傳ふ、現今堂宇は本堂、護摩堂、大師堂、鎮守堂、愛染堂、籠り堂、鐘樓、二王門、客殿、庫裡等なり、鐘樓の前に櫻樹を植ゑ、標石を立て、西行の歌を勒せり。

屋島寺(木田郡屋島浦山)御室派

殿堂莊麗什寶として源平合戦の古器を藏す、鑑眞の草創する所にして、元曆年中には安徳帝の皇居と爲す、天曆二年叡山の明達茲に五大尊供を修し、延寶四年高松藩源節公寺領五十餘石を寄與す、當寺には貞應二年癸未十月と銘せる古鐘を存す。

彌谷寺(三豊郡大見村)高野派

天霧山、筆山と腹背を成し、岩石滿山、豎立横臥、皆佛像仙軀の形造をなし、頗る奇異なるものあり、此寺貞治已後香川氏の花香院と爲し、數世の墳塋あり、香川氏亡び寺亦た衰ふ。



萩原寺(三豊郡萩原村)大覺寺派

行基菩薩の開基にて、本尊は地藏菩薩なり、故に地藏院萩原寺といふ大同年中弘法大師こゝを脩理し、四國八十八番札所の第六十六番即ち讃岐國札所の始まりとし、及雲邊寺を營造してこゝの奥院とす、故に此寺の山號と雲邊寺の山號とを同じ、巨龜山と命じ、其の扁額をこゝに藏せしめらる、天正年中長曾我部元親の讃岐に攻め入りし時この寺を本陣と定め、本尊に歸依淺からざりしといふ、徳川幕府の世となりても、寺は儼然として四方の信仰を維き得て、以て今日に至る、昔は末寺四十八院ありしが今は境内に本堂五大堂地藏堂護摩堂辨天堂二王門鐘樓等あり、客殿庫裡等の建築頗る宏壯を極む。

寺藏の寶物頗る多しといへど特に有名なるは

一弘法大師眞蹟 急就章  
にして其他

壹 卷

一鍍金割五鈷壹口○紫銅寶部五鈷壹口○同上九鈷壹口○同上金不換寶鈴壹口  
以上の四點は弘法大師入唐將來品と傳へ今尙之を保存せり次に古文書類書畫幅等

の所藏亦頗る多し其重なるものは

- 一伏見宮眞仁親王筆地藏院緣起 一卷
  - 一細川右京太夫祈禱感謝狀外 四通
  - 一河野通直同元長同慶惠等年賀狀 四通
  - 一眞光筆十羅刹女 壹幅
  - 一唐朱好禪師筆釋迦三尊壹幅十六羅漢 壹幅
  - 一惠心筆當麻曼茶羅 壹幅
  - 一邪則禪師筆誕生釋迦 壹幅
  - 一理源大師筆五秘密曼茶羅 壹幅
  - 一智證大師筆不動尊 壹幅
  - 一見眞大師筆眞向阿彌陀尊 壹幅
- 其の他觀るべきもの頗る多數となす。

伊舍那院(三豊郡財田中村)大覺寺派

北田山如意輪寺と號す、土州高岡郡大平氏の開基あり、寶曆年中大平國秀の墓石の下

を穿ちしに、骨又は記録を収めたる壺數十を得たりと云ふ。

### 観音寺

(三豊郡観音寺町) 大覺寺派

七寶山神惠院観音寺と云ふ、山上は六十八番山下は六十九番の四國靈場にして、山水明媚の地にあり、琴弾公園と稱せらる。在昔大寶三年法相宗の目證開基せしが、弘法大師正観音菩薩を安置してより真言宗となる。理源大師道範闍梨止住の遺跡にして、古文書等多く、山上の本尊來迎の彌陀、撥遣の釋迦と薬師如來釋迦涅槃像、不動明王並に二童子、一山僧縁起の諸點は、今國寶に編入せらる。

### 三谷寺

(綾歌郡坂本村) 大覺寺派

本尊は十一面観音にして行基菩薩の作、天平年間行基菩薩觀音堂五大尊堂を建立し、初め八葉山施無畏寺と稱せり、弘法大師彌勒堂等を建て都率内院に擬したるに及んで彌陀院と號す、其後二位尼公御影堂を建て、田畑四十九町を寄附し、淨興院新長谷寺と號す、後亦無量壽院と改む、天正年中一山の半灰燼となり、日を逐ふて頽廢す、寛文年間寺主盛範深く之を慨き、新に一字を建て、本尊を安置す、數世の後寂嚴力を寺門の

興隆に竭し、本堂御影堂鐘樓等を新築し、造營全く備はりしが、寛政十年不幸にして祝融の災に罹り、當時の住法純再建に力を盡し經營成就するを得たり、現存するもの即ち是れなり。

### 聖通寺

(綾歌郡多津町) 御室派

本尊は薬師如來の石像なり、寺記に曰く、當寺は清和天皇貞觀十年聖實理源大師の開基なり、聖實は那珂郡狹岑島(今の砂彌島)に生る、年十六空海の弟眞雅法師に投じて得度し、三論を元興寺の願曉圓宗の二僧に學び、唯識を東大寺の僧平仁に、華嚴を同寺の僧玄榮に學び、又空海の従子金剛峯寺の僧眞然に謁して密教を受く、貞觀十年故郷狹岑島に法を開かんとせしも、其地狹隘寺院を營むに足らず、故に此地に寺を建て、聖實の二字を加へて、寶光院聖通寺と號す、本尊薬師如來は其創立の時海中より出たるものにて靈驗甚だ著し、曾て龜山院後宇多院の勅願所たりしと云ふ、堂宇は本坊、大師堂、観音堂、辨才天鐘樓等なり、又本坊左方の山上に巖の薬師と唱ふるあり、搖巖と稱する奇石は其上二丁許の處に在り。

### 光貴寺

(綾歌郡瀧宮村) 御室派

本尊阿彌陀如來、天平中行基の開基にて、弘仁十三年弘法大師之を修造す、菅公の瀧宮に在し、時、又屢々來遊せられたりと云ふ、故大伽藍なりしが今は廢頽して、本堂庫裡鐘樓を存するのみ、寺藏の諸佛は明治の初、暴民瀧宮を火せし時、龍燈院の諸佛を此處に移し、もの多しといふ、今尙存するもの觀るべきものあり、左に擧ぐ

一 木造聖觀音立像

傳行基作

壹 軀

一 絹本着色兩界曼荼羅

二 幅

一同 上

涅槃圖

一 幅

### 國分寺(綾歌郡 端岡村)大覺寺派

本尊は木彫十一面千手觀音菩薩なり、佛身正に一丈有六尺、蓮肉以下五尺なるを以て、總丈二丈一尺の大佛、軀實に世に希なる所たり、按ずるに聖武天皇天平七年疫癘頻りに至る是を以て、普く天下に令し給ひ、釋迦牟尼佛の金像高一丈六尺のもの一軀を造り、大般若經一部を寫さしめ、各敬みて七重の塔を造り、金光明寂勝王經妙法蓮華經各十部を寫さしめ、又天皇親ら金字金光明最勝王經を寫し賜ひ、每塔各一部を置かしめ給ふ、又十一年詔して國分尼寺を造らしめ給ふ、孝謙天皇天平寶字四年尼寺に詔して

戒壇を作り國中の僧尼をして戒を受しめ給へり、國分寺も亦其一たりしなり、故に本尊は釋迦佛なりしに、歷年の久しき災變に遭ひて其本尊を失ひしより、他の本尊觀音の像を移して之に代たるに似たり、或日弘仁中弘法大師當寺を再興するに當り、自ら觀音の像を刻し之を本尊となせしなりと、現今境内三千六百九十八坪あり、本堂、祖師堂、地藏堂、鐘樓、二王門等あり、千手觀音立像一軀は國寶の資格あるものと定めて、明治三十四年四月内務省より告示せらる、二王門の二王尊は運慶の作なりと。

### 白峰寺(綾歌郡 松山村)御室派

綾松山洞林院と號す、本尊は僧智證作觀世音菩薩にて、四國第八十一番の札所なり、寺中に崇徳天皇の御廟所、頓證寺殿あるを以て、其名天下に聞ゆ、寺記に曰、當寺弘法大師智證大師共に開創に盡力せらる、始め弘法大師大同年中寶珠を此峯に埋め、井を穿ち、關伽井と爲す、一源三派吹雪壑と云ひ、寺を建て白峯寺と云ふ、貞觀二年冬、國司紀朝夏井の請に應じ、智證大師圓珍此峯に渉る、山神相摸坊の詫宣に依り、補陀落の香木を曳き來り、大悲像十軀を造り、更に佛廟を立て之を安ず、後凡そ四百年を隔て、長寛二年崇徳上皇の遺詔を以て玉體を此山に葬る、寺僧章實阿闍梨之を奉仕す、靈威帝都に達

す、自後歴世の王者武將も之を尊信し、獻納の寶器枚擧し難かりしに、永徳二年池魚の災に遇ひ、佛像什物悉く烏有となる。後細川頼之夢瑞に因り、國分寺の觀音を移し來りて當寺に安置せりと云ふ。舊寺領六十石なりしに、高松藩祖松平頼重當寺の御陵を守護奉仕するを以て、大に寺格を昇し、堂宇を脩造し、又寺領五十石を増し、萬治四年又十石を加へて計百二十石を授けたりしといふ。現存の建物は左の如し。

頓證寺御殿　この御殿は白峯寺所屬佛堂御廟なり、勅額門内に玉章の樹とて、大なる槻樹あり、又頓證寺形と稱する古き石燈籠あり、又源頼朝供養石塔數百基、山内諸處に残れり。

官庫　頓證寺正殿の西に在り、後小松帝宸筆頓證寺匾額を始め、歷朝勅納の勅器を納む。

十一面堂　崇徳院御持佛十一面觀音木像を奉安す。  
本坊　什寶としては、御宸翰及各侯伯の書翰枚擧に遑あらず。

### 最明寺(香川郡安原村)御室派

大寶元年行基二十餘歳の時、當寺を創立し、如意輪寺と號す。弘仁十二年、僧空海四十八歳の時、當寺に來り精舍を興し、千手觀世音の像を刻し之を安置す。依て空海を中興開基とす。康元元年十一月、北條時頼執權職を武藏守長時に譲り落髮す。自ら最明寺と稱す。遍く諸國を巡り、此地に到り寺を建て、最明寺と云ふ。古畫涅槃圖一幅頗る觀るべし。時頼の書翰數通を張りたる卷軸二幅も亦寺寶となれり。其後、天正年間、長曾我部氏の兵火に罹り、堂宇烏有に歸す。後信徒之を再建せしも、明治十二年復た大火の爲に灰燼し、今の寺觀を存するは近年の建立に係れり。

### 天福寺(香川郡山佐村)御室派

美應山法輪院と號す。寺記に據れば、聖武帝の天平年間、僧行基井原郷音谷に一字を建て、藥師如來の像を刻して之を安置し、美應山法輪院清性寺と號す。弘仁年間、僧空海之を脩造し、慈覺智證の二僧相繼ぎて在住せしが、四條院天福元年、讃岐國司橘公忠勅を奉じて、寺東七十間の地に五十町四方の區域を劃し、新寺境を定め、本堂、講堂、經藏、鐘樓、本坊、十二僧坊等を建て、清性寺を移して天福寺と改稱す。天文年間に及び、細川澄賢仁王門を建つ。天正十三年十月、長曾我部元親由佐位城を攻むるに際して、兵火の爲、堂塔

伽藍殆ど焼燼せり松平氏入國の後元祿八年頼常の命により現今の地に移し本堂を再建せり。

八栗寺(本多郡年禮村)大覺寺派

八栗山の中腹に在り、五劔山千手院と號す、四國八十五番の禮拜場なり、本尊は正觀音とす、延暦年僧空海の開基に係る、境内坪數八百十四坪、本堂、聖天、天祠、大師堂、通夜堂、中將堂、藏王堂、鐘樓、二天門等あり、就中大聖觀喜雙身天王は其靈應顯著なりとて賽者常に絶へず、準別格本山なり。

譽田寺(大川郡譽水村)御室派

七談議所の一にして、天平十一年行基菩薩の創造なり、初めは醫王山藥王寺と稱し、法相宗なりしが、弘法大師入唐歸朝後當寺を修して、七堂伽藍とし、眞言宗に改め、嵯峨帝に奏して鎮護國家勅願所とし、大水主の神を以て當院の鎮守とす、故に改めて神宮寺と號せり、應永の頃龍徳房増呼此の寺に住す、呼修法の餘力佛書彫刻等を能くす、人其巧妙に驚かざるなし、應永十九年勅して權僧正位に任じ、虚空藏院の號を賜ふ、呼因り

て又大修造を加へたり、之を中興の祖とす、天正中寺兵燹に罹りしか、元文中讃岐守松平頼重封に就き、大に修造を加へらる、現存の堂宇は本堂、護摩堂、焰魔堂、聖天堂、鐘樓門、二王門なり、庫裡客殿三庫皆宏壯なり、當寺本尊は行基菩薩作藥師如來にて、日光月光十二神將は増呼の作、多聞持國の二天は弘法大師の作なりと傳ふ、其他諸佛傳教覺鑊等諸大師の作多し、寺藏寶器頗る多し、就中明治卅三年中内務省告示に依りて國寶の資格あるものと定められたるもの左の如し。

甲種四等 繪畫 絹本着色佛涅槃圖 一幅

同 絹本着色地藏曼荼羅圖 一幅

其他重なる寺寶は

一 紙本白衣大士像 豎幅 傳兆殿司筆

一 絹本雪中龍 豎幅 傳陳所翁筆

一 絹本十六善神 豎幅 傳増呼筆

一 絹本著者色醫王山虚空藏院全景橫幅 筆者不詳

一 増三法印筆寫醫王山舊記

- 一 増呼僧正筆八宗目足古寫本
- 一 絹本淡彩万壑松濤圖巨幅 明徐澹筆
- 一 土佐光起筆山王祭圖六曲屏風
- 一 弘法大師筆 阿字小幅
- 一 増呼僧正刻 十二尺板木

釋王寺(大川郡丹生村)御室派

延暦二十年弘法大師之を開創す、本尊阿彌陀佛なり、天正の兵燹に係り、舊記灰燼を得て徴すべきなし、現在の堂宇本堂客殿觀音堂鐘樓堂二王門等悉く備り、屹として淨境を開く、寺藏の寶物中明治三十三年國寶と指定せられたるものは木像彫刻金觀音立像なり。

長福寺(大川郡鴨部村)大覺寺派

千手院法洞院と號す、淳和の朝天長元年弘法大師奉勅建立せし所なり、清和の朝貞觀三年奉勅仁王會を修し、爾後歷朝勅願の密場たりき、永享中細川勝元家臣雨瀧の城主

富盛保當寺本尊を特信し、天正中鴨部城山の城主池田恒利又歸依淺からず、多く寺領を寄せたり、徳川氏の世國守松平氏亦屢當寺に登りたることあり、明和八年後は京都嵯峨大覺寺末に屬し、現今に至ると云ふ、本堂本尊は千手千眼觀世音菩薩、特別堂本尊は半丈六藥師瑠璃光如來にて國寶に屬せるものは是れなり、其他建築には鐘樓門在り、普門閣及經藏等あり、

- 一 甲種四等彫刻木造藥師如來座像 一 軀
- 一 僧鶴洲筆絹本彩色久米八幡宮庭燎尊影 一 幅
- 一 宗本入道筆絹本彩色大涅槃圖 一 幅
- 一 古畫絹本彩色十六善神圖 一 幅

靈芝寺(大川郡志度町)高野派

舊高松藩侯松平氏の菩提所の一にして、香川郡佛生山法然寺と並び稱せらる、寺は山

に據り池に臨み、山門の側老松二株、双龍天に昇るが如し、境極めて幽邃なり、往古は圓律道場にして、日内山大岡寺と稱し、弘法大師亦曾て栖止せしが、天正の兵燹に罹り廢趾となれり、讃岐守松平頼重入國後、寛文二年此道場を再興せしむ、衆寮客殿始めて完し、延寶八年命じて寺命を靈芝寺と稱せしむ、元祿十二年大に修補を加ふ、寶永元年國守松平南嶺君頼常(高松公二代)卒するや、山を卜して壽域とす、天保十三年南溟君頼愨(九代)も亦之に葬らる、山内に二君の兆域あり、天保十四年失火あり、什寶多く烏有に歸す、現在の堂宇は本堂、觀音堂、十三堂、客殿、二天門、鐘樓等なり。

### 地藏寺(大川郡志度町) 御室派

上古讃岐阿波の海岸に海鵜魚と云ふ大魚あり、船筏を害せし故、之を退治せしに、風雨不順にして洪水干魃頻に起りしかば、欽明天皇の御宇、此の憂を除かん爲め、此寺を造營し、藥師尊の像を安置して魚靈堂と號す、百濟國より渡れる赤梅檀の地藏菩薩を本尊とす、又推古帝の御宇、桃樹の園中に化現せる園子尼の像、行基の彫刻に爲れるものあり、又均しく推古天皇の時、讃岐國房前の沖なる高島に流着せる靈木を取りて、本尊の御衣木とせり、又補陀落淨土觀音化身の御親作なりと傳ふる觀音像あり、中古長曾

我部氏の亂を起せる時、伽藍坊舎兵火に罹り、什寶舊記悉灰燼に歸す、其後寛文中當國大守龍雲院之を五町餘の東に移轉再建せり、之れ即ち志度道場たる志度寺なり、然るに舊地は觀音彫刻の靈場、園子尼所住の古跡なるを以て、別に一寺を造營し、如意山地藏寺と號し、四國靈場第八十六番志度寺の奥院と定めたり、又文珠樓を設け、前の法院湛慶作の文殊の像を安置せり。斯の如く當寺は、四國否我國最古の寺刹にして、奇蹟靈場の特殊なる神境なり、特に現住職栗峯心洞師は既に六十四歳の高齡なるに關せず、壯より一意寺門の興隆に熱血を注ぎ、定徳堅固の譽あり、内外の歸依願る篤く、法幢日に盛なりと云ふ。

### 志度寺(大川郡志度町) 御室派

補陀落山と號し、四國八十六番札所の名刹なり、寺記に據れば、當寺の創立は推古天皇の朝に在りて、本尊十一面觀世音は、菌子尼(法名智法尼)と云ふもの靈瑞に感じ、觀音化身の靈像を獲たるもの即ち是なりと云ふ、草創の堂宇は一間四面なりしが、天武天皇の朝、藤原不比等大臣來りて堂宇を大にして名けて死度道場と云ひしが、持統天皇の八年、藤原房前大臣更に大伽藍を修造し、僧行基を開基の主とし、法花八講を修し、且法

華經十卷を書寫し之を伽藍の側に納め、又千基の石塔を建立し、母堂の追福を祈らしめたりと傳ふ、今猶寺側に經塔を存す、延曆以降文保の間當道場は熾魔王應と路相通する所と稱せられ、亡者屢蘇生の縁を得たりと傳ふ、事は寺藏の御衣木縁起兼空上人筆、玉送取縁起相良宗、白杖童子縁起世尊寺行房卿筆、當願暮當縁起兼空上人筆、松竹童子縁起兼空上人筆、千歳丸縁起兼空上人筆、阿一入道縁起相良正任筆、志度寺縁起圖畫六幅等に詳なり、天正年中寺は長曾我部元親の兵燹に罹りしが、慶長九年讃岐守生駒近規の室教芳院觀音堂を建て、其孫正俊元和六年を以て又之を新にせんが、寛文七年讃岐守松平頼重領分三ヶ年人別奉加の令を出し、本堂及諸堂を新にせしむ、同十年竣工す、現今の諸建築中、本堂東西九間六間、魔堂三間、奪衣婆堂二間半、仁王門東西三間、北五間、は即ち是れなり、其他大師堂四間、地藏堂四間、藥師堂三間半、阿彌陀堂四間半、鐘樓堂丈壹、茶堂東西二間、客殿東西六間、玄關東西七間、臺所南北四間半、等は明曆三年より安永七年に至るまでの建造なり、云ふ、要するに寺域廣濶七千九百七十七坪を有し、讃岐東部の最も舊き名利なるを以て、來賽する者常に絶ず、志度町の盛榮多くは是が爲めなり、寺寶頗る富むも、今其國寶となりしものを擧ぐれば、十一面着色觀音畫像、同志度寺縁記圖繪彫刻十一面觀音兩脇士像等なり。

極樂寺(大川郡長尾村)大覺寺派

七壇議所の一なり、本尊は本堂藥師如來、持佛堂阿彌陀尊を安置す、紫雲山寶藏院と號し、天金元年僧行基當寺を郡内石田村に草創し、法相宗なりしが、大同中堂宇灰燼す、今其墟を極樂寺と云ふ、古瓦なほ存す、弘仁十年弘法大師寺跡を鴨部莊東山村に移して之を再興し、眞言秘密灌頂の場とす、天長元年紫雲山寶藏院の號を賜ひ、延喜三年壇議所と定めらる、建武二年寺兵燹に罹る、寺主明範遂に長尾郷に移る、今の寺地是れより、永正中細川澄元寺領を喜捨す、寛永十九年高松藩祖松平頼重亦本寺に歸依、淺からず、城中石清神社御旅所に本寺の阿彌陀佛を移し之を祀らしめたりと云ふ、現在の境内二千三百七十三坪、堂宇は本堂、諸尊堂、熾魔堂、大師堂、鎮守堂、鐘樓堂、大門等なり、大門三王尊石佛高凡五尺、慶安中に置く所、建物嘉永七年の再建に係る桁端の彫刻頗る觀るべし、彫刻、木造藥師如來立像は國寶となれり。

寶生院(小豆郡洲崎村)大覺寺派

天平年間行基の開山なり、本尊は地藏菩薩、弘安年中増呼の興復に係る、皇跡山吉祥寺

密教名利



と號す、大覺寺派の中本山なり、堂宇莊嚴地城宏壯郡内第一の巨刹なり、古書畫の藏最も多し。

其他の名刹

古義

高松市七十間町	御室派	隨願寺	西濱町	大覺寺派	弘憲寺
天神前町	高野派	大護寺	野方町	御室派	多聞寺
三番町	同	東福寺	同	同	福生寺
片原町	同	清光寺	三番町	大覺寺派	地藏寺
築地町	高野派	一成院	濱立町	御室派	吉祥寺
同	同	蓮華寺	九龜市北平山町	同	大善院
同	同	修善寺	御供所町	同	真光寺
西平山町	同	圓光寺	大川郡松尾村	同	西教寺
同	同	阿彌陀寺	鴨部村	大覺寺派	西方寺
志度町	同	常樂寺	同	同	金剛寺

同	同	圓通寺	津田町	大覺寺派	實相寺
同	高野派	法道寺	造田村	大覺寺派	圓光寺
同	同	願興寺	鶴羽村	御室派	淨土寺
丹生村	同	東照寺	譽水村	同	圓光寺
白鳥村	同	千光寺	同	同	觀音寺
同	同	東照寺	相生村	同	東海寺
福條村	同	若王寺	引田町	同	積善坊
同	同	萬生寺	本田郡深元村	同	地藏寺
古高松村	同	延命寺	同	同	喜岡寺
庵治村	大覺寺派	願成寺	卒禮村	同	開法寺
同	高野派	六萬寺	同	大覺寺派	洲崎寺
井戸村	同	淨土寺	同	同	眞行寺
香川郡直島村	御室派	極樂寺	中笠居村	大覺寺派	西光寺
同	同	萬德寺	同	同	廣嚴寺
由佐村	御室派	利劔寺	鷺田村	醍醐派	觀興寺

密教名刹

綾歌郡林田町	御室派	藥王院
同	同	多聞寺
王越村	同	慈雲院
林田村	同	藥師院
坂本村	大覺寺派	安養寺
法勤村	同	島田寺
仲多度郡本島村	醍醐派	觀音寺
同	同	多聞院
善通寺町	小野派	觀智院
同	同	玉泉院
高篠村	小野派	吉祥寺
同	同	牛額寺
同	同	三角寺
四條村	御室派	城福寺
同	同	寶性寺
宇多津町	同	圓通寺
同	同	重德院
金山村	同	吉祥寺
松山村	同	松浦寺
同	同	極樂寺
土器村	小野派	寶光寺
多度津町	大覺寺派	摩尼院
同	同	寶性寺
同	同	華藏院
琴平町	高野派	松尾寺
吉原村	同	萬福寺
白方村	大覺寺派	上生寺
同	同	藥王寺
本島村	醍醐派	長德寺
三豐郡仁尾村	高野派	吉祥院

同	御室派	不動護國寺
勝間村	大覺寺派	勝造寺
觀音寺町	同	總持院
豐濱村	同	宗林寺
諺間村	同	寶林寺
同	小野派	圓明寺
庄内村	御室派	壽命院
同	同	安養寺
仁尾村	御室派	金光寺
大見村	小野派	多聞寺
比地大村	同	萬福院
比地二村	同	徳成寺
笠田村	同	長林寺
同	同	妙音寺
柞田村	同	延命寺
同	同	圓明院
上高津村	同	勝樂寺
同	同	泉藏院
同	同	滿願寺
同	同	龍光寺
栗島村	大覺寺派	梵音寺
同	高野派	香藏寺
同	同	神正院
同	同	圓明院
桑山村	大覺寺派	延壽寺
同	同	總官寺
同	同	蓮臺寺
上高瀬村	同	寶光寺
吉津村	同	吉祥寺
紀伊村	同	東圓寺



無盡山莊嚴院とも云ふ熊野權現の夢想の妙薬あり其の由來は權現大師に妙薬の法を授け給ひ又靈木を與へ給ふ此木を以て大師自ら地藏尊の像を刻して本尊と崇め給ひしものなり。

第六番 (同國同郡松島村大字引野) 安樂寺

本尊藥師如來 座像二尺五寸大師の御作

溫泉山瑞運寺とも云ふ昔溫泉のありし地にして藥師如來有縁の地なるが故に大師如來の尊容を作り諸人に利益を蒙らしめ給ひたりしが中頃不淨汚穢の事ありしより泉涸れしと云ふ。

第七番 (同國同郡高尾村大字高尾) 十樂寺

本尊阿彌陀如來 座像二尺

光明山十樂寺と號す田村和泉守當寺の本尊に歸依して再建せられしと云ふ

第八番 (同國阿波郡土成村大字西原) 熊谷寺

本尊千手觀世音菩薩 座像六尺

普明山眞光院と云ふ本尊の頭に佛舍利百二十粒納めあり御足の裏に此事を記したり脇立不動毘沙門は運慶の作なりと云ふ大師自筆の額あり

第九番 (同國同郡同村大字別當名) 法輪寺

本尊釋迦如來 座像一尺五寸

本尊は入涅槃の釋迦にて世に寢釋迦と云ふ

第十番 (同國同郡八幡村大字切幡) 切幡寺

本尊千手觀世音 座像秘佛大師御作

得度山灌頂院とも云ふ大師此處にまします時空中より幡壹流降り半ば切れて一は西に飛び一は山此に留まる斯る奇瑞の現れし靈地なるを以て大師寺號を切幡寺と名け堂舎を建て觀世音並脇立に不動毘沙門の像を刻みて安置し給へり

第十一番 (同國麻植郡西尾村大字飯尾) 藤井寺

本尊藥師如來 座像三尺大師の御作

金剛山藤井寺と號す此寺より十二番燒山寺まで三里の間山路險はしく一里半を隔て柳の水とて大師加持の靈水あり又た左右内村に杉の大木あり。

第十二番 (同國名西郡下分村大字左右内) 燒山寺

本尊虛空藏菩薩 座像四尺五寸大師の御作

摩盧山性壽院と號す山地にて高く虚空に聳え山の峰三里あり極めて難處なり奥院

へ十町余、護摩の窟、蛇の窟等あり、大門より十町余下りて右衛門三郎の墓あり

第十三番 (同國名東郡八幡村大字一の宮) 一の宮

本尊十一面觀世音

大栗山花藏院大日寺と云ふ、本尊はもと大日如來にて大師の作なりしが、後に一の宮の本地佛として十一面觀世音を安置せしと云ふ

第十四番 (同國同郡國府村大字延命) 常樂寺

本尊彌勒菩薩 座像八寸 大師の御作

盛壽山と號す、俗に矢野延命と云ふ。

第十五番 (同國同郡同村大字矢野) 國分寺

本尊藥師如來 座像一尺五寸

金色院國分寺と號す、聖武天皇の御宇諸國の區域を定め國分寺を置かれし時の一也。

第十六番 (同國同郡國府村大字觀音寺) 觀音寺

本尊千手觀世音 丈六尺、弘法大師の作

大師の開基にして光曜山千手院と號す、昔は大地なり、然るに世の變遷により衰頽せり、今の堂舎は阿州の大守道隆公の再建なり。

第十七番 (同國同郡南井土村大字井土) 井土寺

本尊藥師如來 座像八尺、大師の御作

瑠璃山明照寺眞福院とも云ふ、此地は昔水性惡しく濁水にて毒氣ありたり、大師御修行之御時之を憐れみ、地を加持して井土を掘らしめ給ひしに瑠璃の如き清水湧出す、依て藥師如來有縁の地なりとて如來の尊像を作り本尊となし給ひしなり。

第十八番 (同國勝浦郡小松島村大字田野) 恩山寺

本尊藥師如來 座像一尺二寸、行基菩薩の作

行基菩薩の開基なりしが、世の變遷により頽廢したりしを大師御再建なされ、御母公を御孝養ありし縁により、御遺體を此地に納め、御墓所を築き給ひしとぞ。

第十九番 (同國那賀郡立江村) 立江寺

本尊地藏菩薩 座像丈六尺、大師の作

橋池山地藏院とも云ふ、行基菩薩の開基にして、聖武天皇の御建立、本尊は行基の作にて一寸八分の小像なるを、大師御再興の砌り自ら丈六尺の大像を刻み、彼の小像を體內に納められしと云ふ、此地藏尊の靈應を蒙りしもの幾千萬なるを知らずと、世に子安の地藏と稱して安産或は子なき人或は生長を願ふ人等には殊に靈驗多しと聞く、

彼石州濱田の櫻屋金兵衛の娘おきよは亭主を殺し、密夫長藏と共に我が色欲をほし  
いまゝにせんが爲めに、四國を巡り此寺に來り本堂に詣てしに、不思議にもおきよの  
黒髮俄に鐘の緒に纏ひし等の奇蹟あり。

第二十番 (同國勝浦郡生比村大字敷地) 鶴林寺

本尊地藏菩薩 丈三尺

靈鷲山寶樹院と云ふ、昔大木の靈樹あり、鶴群り棲む、其の内に光明を放つものあり、大  
師怪しみて見玉へば金色の地藏尊の小像なり、大師將來に於て靈像の亡失せんこと  
を恐れ給ひ、右の靈樹を以て今の木像三尺餘の地藏尊を刻みて彼の小像を體内に納  
め御腹佛となし給ひしと云ふ、奥院は四國第一の行場にて數十丈の瀑布あり、大師護  
摩法を修し給ひし處、又灌頂の瀧ありて此瀧水は功德水にて諸病は勿論虐疾にても  
乍ち平癒すと云ふ。

第二十一番 (同國那賀郡加茂谷村) 大龍寺

本尊虚空藏菩薩 大師の御作。

捨身山常住院と稱す、大師幼年の御時此地にて求聞持の法を修し給ふ、其瑞相には寶  
劍天より降り壇上に突立ちたり、依て意願成就し給ふ所の地なり、二王門の傍より一

丁餘過ぎて捨身が嶽あり、八大童子の堂あり、裏門二十五丁餘下りて龍の岩屋あり、其  
廣さ奥深きこと測り難しと云ふ、此奥に毒蛇を封じ込め給ひし處ありとぞ、凡そ四國  
の靈場多き中にも當山は特に由緒ある勝地なり。

第二十二番 (同國同郡新野村大字荒田野) 平等寺

本尊藥師如來 座像丈二尺、大師の御作

白水山醫王院と號して大師の開基し給ふ所、昔は七堂伽藍の大寺にて塔中十二ヶ院  
ありと云ふ、南の坂下に名水湧出す。

第二十三番 (同國海部郡日和佐村) 藥王寺

本尊藥師如來 座像秘佛

醫王山無量壽院と云ふ、昔聖武天皇の勅願寺にして行基菩薩の開基なり、後大師御歲  
四十二の時今の本尊藥師の像を作り、自他共に厄除の利益を蒙らんが爲めに御祈念  
を込めさせられたる如來なるが故に、世に厄除の藥師と稱す。

第二十四番 (土佐國安藝郡津石村大字高岡) 東寺

本尊虚空藏菩薩 大師の御作

室戸山明星院最御崎寺とも云ふ、大師此所にて虚空藏求聞持の秘法御修行ありし時

御口に明星飛び入り給ふと思召し口中の唾を吐き出し給へば其唾海底に沈み忽ち光明輝きしにより毒蛇惡獸障碍のもの光に恐れて再び來らず遂に御修法の祈願成就せられたりと其時の御歌に法性の室戸といへと我がすめばうゐのなみ風よせぬ日ぞなき此の邊に世に言ふ不食芋と云ふものあり。

第二十五番 (同國同郡室戸村大字室津) 津寺

本尊地藏菩薩 大師の御作

寶樹山眞言院津照寺と云ふ大師の開基にして堂舎は大師の御建立なりと云ふ。

第二十六番 (同國同郡同村大字元) 西寺

本尊藥師如來 秘佛、大師の御作

龍頭山光明院金剛頂寺と號す大師の御建立にして本尊を彫刻なし終らせられ御安置の御修法ありし際御尊像自ら厨子中に移らせられたりと云ふ斯る靈佛なれば永代秘佛にしたりとぞ。

第二十七番 (同國同郡廣濱村) 神峯寺

本尊十一面觀世音 丈一尺二寸

竹林山と號す山阪險しく登ること一里人呼て九折と云ふ山上に本堂あり然れども

申の刻過れば人登ることを得ずと云ふ。

第二十八番 (同國香美郡佐古村大字代日) 大日寺

本尊大日如來 丈四尺五寸、行基の作

法界山高照院と云ふ行基菩薩の開基にして後大師の御再建なり其砌り楠木の太木にて藥師如來の像を彫刻して安置し給ふ。

第二十九番 (同國長岡郡比村大字國分) 國分寺

本尊千手觀世音 丈三尺、脇士不動毘沙門行基の作

聖武天皇の勅願所にして行基菩薩の開基なり。

第三十番 (同國土佐郡江之口村大字田淵) 一の宮、安樂寺

本尊阿彌陀如來、秘佛

百々山神宮寺と號す。

第三十一番 (同國長岡郡五臺山) 五臺山

本尊文珠菩薩、行基の作

唐土の清涼山を遷されたるが故に五臺山の稱あり金色院竹林寺と號す聖武天皇の勅願寺にて行基菩薩の開基なり。

第三十二番 (同國同郡十市村) 禪師峯寺

本尊十一面觀世音

八葉山求聞持院と號す、本尊は大師御感得の靈像なりと云ふ。

第三十三番 (土佐國吾川郡長濱村) 高福寺

本尊藥師如來 脇士日光月光兩菩薩共に弘法大師の作

保壽山雪溪寺と號す。

第三十四番 (同國同郡秋山村) 種間寺

本尊藥師如來 聖徳太師の命、百濟佛師の作

昔野中に大般若經天より降りしと云ふ古跡あり、當寺の重寶は此の經なりと、此處に

弘法大師唐土より傳來の穀類の種を蒔たる因縁に依りて種間寺と稱すと云ふ。

第三十五番 (同國高岡郡高岡村大字邊) 清瀧寺

本尊藥師如來 日光月光十二神將共に行基菩薩の作

醫王山鏡智院と號す、大師堂の脇に眞如親王の御墓あり。

第三十六番 (同國同郡宇佐村宇佐) 青龍寺

本尊不動明王 大師の御作

獨鈷山伊舍那院と號す、唐土の青龍寺に似たる勝地なるが故に寺號となし、又弘法大師唐土に留學の時、獨鈷杵を投げしに此の地に止まりし故に山號となしたりといふ、本堂より四丁許り西に奥の院あり、又出見村は昔花山院上皇の移され給ひ遂に崩御し給ひし地にして、千光寺に御廟あり。

第三十七番 (同國同郡久保川村) 岩本寺

本尊阿彌陀如來 右藥師如來、左觀音不動

仁井田五社の元別當職にして、本尊は五社の本地物なり。

第三十八番 (同國幡多郡清松村大字伊佐) 蹉陀山

本尊千手觀音 丈六尺並に二十八部衆共に弘法大師の御作

蹉陀山金剛福寺と號す、往昔役の行者此地に修業ありしとき天狗多く來り障礙するにより此を咒伏したるに天狗足ずり悶えたりと其より蹉陀と稱せりと、大師唐土より投げられたる五鈷此の山に止まりし故に大師歸朝の後有縁の靈地なりとて御再興ありて寺號を金剛福寺と名け、又觀音を安置せられたるにより補陀落山とも云ふ、此の境内に不思議の物多し、龍の駒の飼場、いすゞの雨、汐溝石、泣石、お龜さん、大師一夜の石鳥井、ゆるき岩、地獄穴、釣鐘石、種々の奇石あり、正月一日には龍宮より火上るといふ。



第三十九番 (同國同郡平田村字中山) 延光寺

本尊藥師如來 大師の作

赤龜山と號す、大師の御建立なり、此寺には笑ひ不動並に半鐘一寸八分の米粒の三品の由緒深かき寶物を藏す。

第四十番 (伊豫國南宇和郡御庄村字平城) 觀自在寺

本尊藥師如來 丈一尺二寸、大師の御作

平城山藥師院と號し、大師の建立なり。

第四十一番 (同國北宇和郡成妙村字戸履) 龍光寺

本尊十一面觀世音 大師の御作

稻荷明神を勸請あり、大師と佛法を守り無福の衆生を救ひ給ふ事の契約ありし神なりし故此寺に勸請せしなりと云ふ。

第四十二番 (同國同郡同村字則) 佛木寺

本尊大日如來 大師の御作

一顆山盧那院と云ふ、大師爰に至りしとき、古き楠の上に光明あり、即ち一顆の寶珠なり、大師楠を伐り大日の尊像を作り其の寶珠を納めしといふ、楠の株今に朽ちること

なく現存せりと云ふ。

第四十三番 (同國東宇和郡田筋村大字明石) 明石寺

本尊千手觀世音 座像丈三三寸

源光山圓手院といふ、白王權現の石あり之れ明石といふものなり。

第四十四番 (同國上浮沈郡管生村) 大寶寺

本尊十一面觀世音 丈四尺三寸、立像、大師の御作

大覺院とも云ふ、人皇四十二代、天武天皇大寶元年の建立にして、大師御感得に依つて御本尊を彫刻し給ふ、其尊客生ける管を敷くにより山號とせり。

第四十五番 (同國同郡土佐川村字七島) 岩屋山

本尊不動明王 石佛にして大師の御作

海岸山と號す、形奇怪の岩石種々あり、實に不思議の勝地なり。

第四十六番 (同國下浮沈郡坂本村大字淨) 淨瑠璃寺

本尊藥師如來

醫王山養珠院と號す。

第四十七番 (同國同郡同村同字) 八坂寺

本尊阿彌陀如來 丈ケ三尺、座像、惠心僧都の作

熊谷山妙見院と號す。

第四十八番 (同國温泉郡桑村字高井) 西林寺

本尊十一面觀世音 丈ケ三尺、立像、大師の御作

清涼山安養院と號す。

第四十九番 (同國同郡同村大字鷹子) 淨土寺

本尊釋迦如來 行基菩薩の作

西林寺三藏院と號す、人皇四十六代孝謙天皇の勅願にて行基菩薩の開基なり。

第五十番 (同國温泉郡桑原村大字如寺) 繁多寺

本尊藥師如來 座像、丈ケ三尺、行基菩薩の作

東山瑠璃院と號す、孝謙天皇の勅願にて行基菩薩の開基なり、護摩堂の不動尊の像は

轉行大師の作なり。

第五十一番 (同國同郡道後村字石手) 石手寺

本尊藥師如來 座像、丈ケ二尺五寸、行基菩薩の作

元能野山安養寺と云ひしを、右衛門三郎手に石を握りて生れ、國司河野家の嫡子とな

り、其石を當寺に納めて取り建てられし縁により石手寺と改む。

第五十二番 (同國和氣郡和氣村大字太山) 太山寺

本尊十一面觀音 丈ケ六尺、立像、行基菩薩の作

龍雲山護持院と號す、聖武の御建立、本尊は三國傳來の小像の觀音なるを、行基菩薩大像を彫刻して鉢内へ給めたりと云ふ。

第五十三番 (同國同郡同村大字和氣濱) 圓明寺

本尊阿彌陀如來 立像、丈ケ三尺五寸、行基菩薩の作

須賀山正智院と號す。

第五十四番 (同國越智郡野間村大字河方) 延命寺

本尊不動明王 座像

近見山不動院と號す。

第五十五番 (同國同郡日吉村大字別宮) 別宮

本尊大通智勝佛

大積山金剛院と號し又光明寺南光坊とも云ふ、文武天皇の御世三島明神勸請の地なり。

第五十六番 (同國同郡日高村大字小泉) 泰山寺

本尊地藏菩薩 座像丈ケ二尺四寸、大師の御作

金剛山と號す、大師の開基にして本尊も大師の作なり。

第五十七番 (同國同郡瀬部村大字八幡) 八幡

本尊阿彌陀如來

榮福寺と云ふ、右清水八幡宮を勸請ある地なり。

第五十八番 (同國同郡同村大字別所) 佐禮山

本尊千手觀音 立像、丈ケ六尺

仙遊寺千光院と云ふ、天智天皇の御建立、本尊は龍女の作なりとて世に珍らしき靈像なり。

第五十九番 (同國同郡櫻井村大字國分) 國分寺

本尊藥師如來 座像四尺、行基菩薩の作

金光山景勝院と號す、聖武帝の勅願にして、昔國の區域を分ち寺を以て國境とせられし時の其の一つなり、當山に脇屋義助の墓あり。

第六十番 (同國周布郡千足山村大字横峰) 横峰寺

本尊大日如來、座像丈ケ二尺三寸  
佛光山福智院と號す、今は大峯寺と云ふ、石仙と云ふ人の開基にして石鐵山藏王權現を勸請す。

第六十一番 (同國同郡小松村大字南川) 香苑寺

本尊大日如來 大師の御作

梅檀山教王院と云ふ、大師梅檀木を以て本尊を彫刻せし靈像なるが故に山號となす。

第六十二番 (同國同郡同村大字新屋敷) 一の宮

本尊十一面觀世音 立像丈ケ一尺二寸

天養山觀音院寶壽寺と云ふ。

第六十三番 (同國新居郡米見村大字寺野) 吉祥寺

本尊毘沙門天王 丈ケ二尺座像、大師の作

密教胎藏院と云ふ、又柴井と云ふ、大師の加持水あり。

第六十四番 (同國同郡神戸村大字洲の内) 前神寺

本尊阿彌陀如來

石鐵山と云ふ、常に登る得はず、六月一日より三日まで登るなり、因て遙拜所あり此の

山は金の鎖に取付きて登る處三ヶ所あり、藏王大權現示現の地にして役行者修練の山なれば大峯山と同様の靈地なり。

第六十五番 (同國宇摩郡金田村大字三角) 三角寺  
本尊十一面觀世音 立像丈ヶ六尺二寸、大師の作

由靈山慈尊院と號す、彌勒菩薩も安置せる故此號ありと云ふ、三角の護摩壇あり、奥院まで五十八丁險しき岩の山阪なり、大師の開基にて又名仙龍寺とも云ふ。

第六十六番 (讚岐分阿州三好郡佐馬地村大字自他) 雲邊寺  
本尊千手觀世音 立像丈ヶ三尺三寸、大師の作

巨龍山千手院と云ふ、脇立不動明王毘沙門天共に大師の作なり、此寺は阿豫讚の三國の境にして阿州より造營せりと雖も讚州の札所となれり、巨龍山の額は大師の眞筆なり。

第六十七番 (讚岐國豐田郡社村大字小松尾) 小松尾寺  
本尊藥師如來 座像丈ヶ四尺、大師の作、脇士十二神將は湛慶の作

小松山大興寺と云ふ。

第六十八番 (同國同郡觀音寺村大字觀音寺) 琴彈八幡

本尊阿彌陀如來

七寶山神惠院と云ふ、此宮は文武天皇の御宇に豐前宇佐より移らせ給ふ、時御舟の中に琴の音聞えしに依り名づけたりと、此宮は武内大臣、南は住吉明神なり。

第六十九番 (同國同郡同村同字) 觀音寺  
本尊聖觀世音 立像二尺五寸、大師の作

七寶山と云ふ、大師琴彈八幡へ參詣の時御神託に依て建て給ふ所なりと。

第七十番 (同國三野郡本山村大字寺家) 本山寺  
本尊馬頭觀世音 座像丈ヶ二尺五寸、兩脇に阿彌陀藥師を安置す、皆大師の作

寶持院と云ふ、本山の莊にあるを以て寺號とせり。

第七十一番 (同國同郡大見村大字大見) 彌谷寺  
本尊千手觀世音 立像丈三尺五寸

劍五山千手院と云ふ、本行基菩薩の開基なり、後大師求聞持の法修行の時、五極の利劍降り金剛藏王出現ありて、此地は密法弘通の靈地なることを示されたるより、後大師精舎を建て本尊を彫刻して安置せられたり、眞に此地は靈域にして三朶の嶺空に聳え、見る處皆佛像の狀態ならざるはなし。

第七十二番 (同國多度郡吉原村大字吉原) 曼荼羅寺

本尊大日如來 座像丈ケ二尺五寸、大師の作

我拜師山延命院と云ふ、大師善通寺を建立されし時、當山も造立せり、大師七佛藥師の尊像を作り給ひて、金堂に安置し、疫病除遣の祈念有りしと云ふ、此處に西行法師の池あり、水莖の岡と云ふ。

第七十三番 (同國同郡同村同宇) 出釋迦寺

本尊釋迦如來

我拜師山と云ふ、大師幼少の時、高き山頂に攀ぢ登り、諸佛に誓ひて、宜く我一生に成佛し、衆生を利益することを得べくんば、釋迦世尊御形を現はし、證明し給へ、願ひ叶はずば、今此命を諸佛に供養し奉らんと峻しき嶽より谷底へ身を捨て給ふ、其時天女天降り衣の袖を延べて抱き奉る、時俄に光明を放ち、釋迦如來現はれ給ひ、大師の誓願成就を證し給ふとあり、斯る靈跡なる故に、大師後に伽藍を建立し、拜し給ふ所の如來の尊容を彫刻して、本尊となし給ふと云ふ。

第七十四番 (同國同郡筆岡村大字弘田) 甲山寺

本尊藥師如來 丈二尺五寸、座像、大師の作

醫王山多寶院と云ふ、藥師如來有縁の靈地なる故、大師自ら彫刻し、本尊として建立の地なり。

第七十五番 (同國同郡屏風浦善通寺村) 善通寺

本尊藥師如來 大師自作土偶の佛像にして、今の佛體の腹中に納む

大師御誕生の靈地にして、日本密宗根本の地なり、我高祖弘法大師の御父君は佐伯善通卿、御母は阿刀氏玉寄姫君にして、寶龜五年六月十五日、此地に降誕せり、斯る縁由の靈地なる故に、大師修行の末、父君の邸宅を三寶に供養し、御菩提の爲、堂塔伽藍を建立して、寺號を父君の名を取て善通寺と名け給ひしなり、今の大師堂の浦は御産家の所ありとて、誕生院とも云ふ、山號を五岳と云ふは、五つの山形屏風を立てたる如くなれる故、屏風ヶ浦と云へり、本尊は元大師の作にて、土佛なりしが、永祿年中、兵燹に罹りし後は、今の本尊の胸中に納め奉りしとあり、此の尊の事は、東鑑に記せり、又瞬目の御影を稱して、大師年三十一歳の時、姿を庭前の池水に寫し、御形見に繪き、母君に與へ置きて、入唐し給ひたる其姿なり、此池今に御影の池と云ふ、又瞬目大師の緣由は、人皇八十四代土御門天皇の御宇、承元二年八月朔日、禁裏に於て、觀覽あらせられしに、不思議や、御目を瞬きし給ふより、瞬目の大師と稱せり、其時に下し給ふ御繪旨に、尊容を花洛

に請じ、肅拜して信心を増進すと宣へり、此外大師請來の寶物は毎度天覽あらせられしとあり、抑も當山は四國靈場中第一の名藍にして、天竺入塔の土を敷きて建てたる地なれば、天竺釋迦如來常說法の靈鷲山に異ならず、法然上人も此由を知らしめて曰く、一度此地に詣てなん輩は一佛淨土の友たるべし、此度の思出此事に侍り候云々と御傳記に見えたり、又親鸞上人も師の語を信じ給ふや、此地に住み給はんものとして上人自作の木像を送り給ひたり、又西行法師も四國行脚の際、暫く錫を此地に留め彼の山に登りて詠れたる歌に、回りはん事の契ぞたのもしき巖々しき山の誓ひみるにもと詠れたり、又此近傍には御遺跡數多散在せり。

第七十六番 (同國那珂郡瀧川村大字金倉寺) 金倉寺

本尊藥師如來 座像一尺八寸、智證大師作

鷄足山寶幢院道善寺と云ふ、此地は訶利帝母の出現ありし所なり、智證大師は此地に誕生ありて後三井寺を開基し、天台宗寺門派の開祖なり。

第七十七番 (同國多度郡豊原村大字北鴨) 道隆寺

本尊藥師如來 立像二尺五寸、大師の作

桑田山明王院と云ふ。

第七十八番 (同國鞍馬郡宇多津村) 道場寺

本尊阿彌陀如來 丈ヶ一尺八寸、大師の作佛光山と云ふ。

第七十九番 (同國阿那郡天皇西之庄村) 妙成就寺

本尊十一面觀世音 座像一尺三寸、大師の御作

金花山摩尼珠院と云ふ、崇徳天皇崩御の時、御棺を暫く据え奉りし因縁により天皇寺とも稱す、同帝の御鎮座所として祭れり。

第八十番 (同國阿野郡國分村) 國分寺

本尊千手觀世音 立像、作者不詳

白牛山と云ふ、聖武天皇の御宇國分寺と稱し、一國に一ヶ寺を置かれし其の一なり

第八十一番 (同國同郡青淺村大字白峰) 白峯寺

本尊千手觀世音 立像三尺三寸、智證大師の作

凌松山千手院と云ふ、大師の開基なり、本尊は補陀洛山の靈木を以て彫刻せられし靈像にて白峯大權現の本地佛なり、又崇徳天皇の御廟あり

第八十二番 (同國香川郡笠居村大字中山) 根來寺

本尊千手觀音 立像、丈ヶ三尺八寸、大師の御作

青峯山千手院と云ひ、大師の建立なり。

第八十三番 (同國同郡一ノ宮村) 一の宮

本尊正觀音 立像、丈ヶ三尺五寸、大師の御作。

神毫山大寶院と云ふ。

第八十四番 (同國木田郡片之村大字屋島) 屋島寺

本尊千手觀音 大師の作

南面山千手院と云ふ、人皇三十六代孝徳天皇の御宇天平寶字年中に唐より來朝せし鑑真和尚の開基にして、大師の中興せし寺なり、源平二氏の寶物多く、佐藤次信の墓あり。

第八十五番 (同國三木郡牟禮村) 八栗寺

本尊正觀世音 立像、丈ヶ五尺

藏王權現を勸請せる社あり、奥の院の絶頂に五つの劔先あり、此の故に五劔山と云ふ、又大師入唐の前試に燒栗八ヶ蒔きたりしに芽出て葉さかえて生長せし故八栗寺と號せりと云ふ。

第八十六番 (同國大川郡志渡村) 志渡寺

本尊十一面觀世音 立像、丈ヶ五尺、觀音化身作

補陀洛山清淨光院と號す、文殊菩薩の化身園小尼の草創にして、推古天皇の勅願に依て行基菩薩の中興せし所なり。

第八十七番 (同國同郡與山村大字西村) 長尾寺

本尊聖觀世音 立像、丈ヶ三尺二寸、大師の御作

補陀洛山觀音院といふ、聖徳太子の開基にて後大師の再興せし名藍なり。

第八十八番 (同國同郡同村大字金剛) 大窪寺

本尊藥師如來 座像、丈ヶ三尺、大師作

醫王山返照院と云ふ、行基菩薩の開基なり、其後大師爰にましまして御修業あらせられし地なりと云ふ。

以上阿波國三十三箇所。此里程三十七里。土佐國十六箇所。此里程八十五里十五丁。伊豫國二十六箇所。此里程九十二里五丁。讃岐國二十三箇所。此里程三十七里十八丁。國境及復路を加ふれば、一週總里程二百八十八里餘、坂路渡川數四百八十八と稱す。

## 九州及新開地

東長寺(福岡市上) 御室派

南岳山東長寺と稱す、弘法大師の草創本尊不動明王は大師の作當時は密教最初の舊刹にして、初は博多の海邊に在りて、境内方四町、頗る宏莊の大伽藍なりしも、永録中兵燹に罹りて、現在の地に再建せり、後ち藩主黒田元之公より寺録三百石、山林十五萬坪を寄附せられ、安永九年御室惣法務宮深仁法親王より寛平法皇の尊影を安じ、永世此道場にて御影供修行の繪旨を賜はりたり。

鎮國寺(福岡縣宗像郡田島村) 御室派

皇鑿の開基 時の郡領宗像大宮司長氏施主たり、五社の本地の佛像を安置し、鎮護國家の道場とす、皇鑿より仁秀迄二十六世にて、座主絶え、其後山伏住す五社の本地五佛何れも大なる木像にて、其製作精巧なり。

願成寺(熊本縣球磨郡大村人吉) 大覺寺派

此寺の創立は四條天皇天福元年に在り、開山弘秀上人は遠江國常福寺住僧にして、嚮に建久九年人吉城主第一世相良長頼公に隨ひ來りて、三十六星霜間精修經營し、茲に至りて、結構莊麗なる七堂伽藍を建造し、其金堂は鎌倉長勝壽院大御堂の摸造にて、本尊阿彌陀如來を奉安す、本願主相良公水田五町歩を寺領に寄せて大檀越となり、越て建長六年三月十日薨す、遺命に依りて當山に葬り、蓮佛大禪定門と法諡せり、後永祿三年相良義陽公金堂を再建し、島津義久公佛壇の材を贈られたり、越へて文祿元年豊公征韓の役に、山主勢辰上人相良長每公に隨て出征す、勢辰は元肥後八代宮地悉地院住僧にして、懷良親王の尊牌を祀り、天正年間紀州根來寺の執事となり、信長公該寺に逼りし際、兵火の間に奔走し、辛じて寶物及秘密聖教は火を免れ、持して郷に歸り、悉地院へ傳へ、後當山に納めて山主となる、即ち智德兼備の僧傑なり、征韓凱旋の後效を賞せられて、寺祿三百石、水田十七町五反三畝、山林二十町歩を加へられ、境域六町餘に亘り、即ち戰死病沒者の遺骨を葬り、大に堂塔を建立し、新に六院を造營し、寺祿各廿五石を充つ、蓋し六院とは持明院、玉藏院、寶積院、多聞院、花藏院、淨身院なり、就中庫裡客殿は千三百四十五疊敷ありしと傳ふるに徴して、其規模の宏大なりしを知るべし、後慶長十六年五月二十一日、勢辰上人は勅許權僧正に補せられ、上京參内し、専ら鎮護國家を祈



るべしとの勅を賜はり、緋色の法服を授けられ、重ねて参内の垂旨を蒙り、勸修寺大納言より安養殿と書せし額を授けられ、金堂に掲げ、翌年三月島津家久公當山に來り僧正を訪ふ、爾來勅許權僧正を寺格とし、三十六の末寺を統べ、繼目は京都嵯峨大覺寺法親王より後宇多法皇の法流を傳へ、参内せるを以て格式とせり、當山の尊嚴と勝區は其れ如斯、然るに星移り物換り、明治維新に際し寺縁を返上し、六院を廢し、後西南の役に諸堂伽藍兵燹に罹ると雖も、幸ひ本尊春日佛師傑作阿彌陀如來及寶物秘密聖教古文書等は禍ひを免れ、其數皇國に稀にして、今や國寶に指定せらる、現住僧我快嚴師は國寶保存會を興し、大に寺門の隆榮を圖り、上下の歸依願る焉し。

滿願寺(熊本縣阿蘇郡南小國村) 高野派

立護山と號す、當寺は龜山院の御宇九州探題北條六郎時定、其子遠江守隨時等と共に建長七年下向し、敵國降伏、國威増輝の爲め建立せる所なり、開基は醍醐三寶院の宮、經樂大僧正たり。

其他の名刹

大分縣

東國東郡姫島村	御室派	眞戒寺	速見郡杵築町	同	護保寺
日出町	醍醐派	蓮華院	北杵築村	同	泉壽院
宇佐郡宇佐町	東寺派	大樂寺	日田郡日田町	醍醐派	明王寺
大分郡大分町	高野派	寶戒寺	同	同	福壽院
北海郡郡白杵町	同	興山寺	南海郡郡佐伯町	同	大日寺
大野郡三重町	同	蓮城寺	上井田村	高野派	大恩寺
同	同	普光寺	直入郡竹田町	同	願成寺

宮崎縣

東臼杵郡東海村	御室派	大武寺	門川村	同	永願寺
南方村	同	天福寺	岩脇村	醍醐派	中野寺
恒富村	同	光明寺	兒湯郡上穂北村	御室派	長安寺
都於部村	智山派	黒貫寺	東諸縣郡本莊村	高野派	照崎寺

密教名刹

南那珂郡本城村

同

普門寺

北方村

同

極樂寺

福岡縣

小倉市鍛冶町

高野派

正福寺

堺町

同

遍照院

米町

同

地藏院

福岡市博多

御室派

大乘寺

社家町

同

遍照院

久留米市寺町

大覺寺派

醫王寺

企救郡板櫃村

高野派

清水寺

京都郡豐津村

御室派

國分寺

田川郡大任村

高野派

十輪院

若松市修多羅町

同

東南院

鞍手郡中村

御室派

清水寺

朝倉郡宮野村

同

南琳村

志津村

大覺寺派

觀音寺

宗像郡勝浦村

御室派

想智院

粕屋郡篠栗村

高野派

南藏院

筑紫郡水城村

御室派

國分寺

堅粕村

同

東光院

同

同

惠光院

住吉村

高野派

般若院

糸島郡雷山村

御室派

大悲王院

同

同

興福寺

同

同

寶池坊

今津村

同

誓願寺

三井郡山川村

東寺派

東林寺

八女郡水田村

大覺寺派

光明寺

光友村

御室派

谷川寺

佐賀縣

佐賀郡川上村

御室派

實相院

新北村

高野派

多聞院

嘉瀬村

御室派

德善院

北川副村

同

福滿寺

西松浦郡東山代村

大覺寺派

寶積寺

大山村

同

龍泉寺

西山代村

同

天福寺

大川内村

同

報身寺

杵島郡北方村

同

大聖寺

武内村

同

福生寺

住吉村

同

定林寺

同

同

悉地院

橘村

同

感應院

中通村

同

東光寺

錦江村

御室派

玉泉坊

同

同

座主坊

藤津郡鹽田村

同

常在寺

長崎縣

長崎市高野平町

高野派

清水寺

伊良林町

御室派

延命寺

密教名刹

三

岩原町

同

聖無動寺

佐世保市

大覺寺派

大智院

東彼杵郡下波佐見村

同

東前寺

南高來郡南串山村

御室派

一乘院

北松浦郡平村

大覺寺派

毘沙門寺

南松浦郡本山村

同

明星院

富江村

御室派

妙泉寺

玉ノ浦村

大覺寺派

大寶寺

北松浦郡江迎村

智山派

壽福寺

平戸村

同

最教寺

柚木村

同

西光寺

鹿野村

同

潮音院

東彼杵郡日字村

同

青蓮寺

壹岐郡香椎村

同

能滿寺

### 熊本縣

熊本市北新井町

高野派

正福寺

阿蘇郡南小國村

同

滿願寺

玉名郡玉水村

同

報恩院

鹿本郡山鹿町

同

金剛乘寺

八代郡八代町

同

醫王寺

球磨郡久米村

大覺寺派

吉祥院

水上村

智山派

生善院

### 鹿兒島縣

鹿兒島市長田町

高野派

最大乘寺

### 沖繩縣

那霸區若狹町

東寺派

護國寺

垣花町

同

鳴海寺

中頭郡宜野灣村

同

神宮寺

西原村

同

遍照寺

島尻郡真和志村

同

神應寺

### 北海道

北見國網走町

高野派

弘道寺

根室國根室町

同

彌榮寺

釧路國釧路町

同

西端寺

日高國三石村

東寺派

圓昌寺

札幌區北五條町

高野派

隆光寺

石狩國石狩町

同

立江寺

同

同

玉泉寺

角田村

小野派

弘清寺

浦白村

高野派

金剛寺

旭川町

同

金峯寺

膽振國俱知安村

同

金剛寺

虻田村

同

亮昌寺

壯瞥村

御室派

壯榮寺

小樽區稻穂町

高野派

日光院

密教名利

三

奧澤町	同	不動院	後志國瀨棚町	同	法性寺
同	醍醐派	靈明寺	岩内町	高野派	本弘寺
大江村	同	仁玄寺	函館區青柳町	同	高野寺
泊村	同	觀音寺	東川町	智山派	函館寺
相生町	同	新注連寺	天鹽國增毛町	同	天真寺
札幌區南七條町	同	新榮寺	根室國彌生町	同	清隆寺
後志國壽都町	同	菩提院	旭川區	同	真久寺

臺灣

臺北廳大加納堡蘆舛	高野派	弘法寺	臺南廳五帝廟街	同	布教廳
-----------	-----	-----	---------	---	-----

朝鮮

京城西四軒町	高野派	光雲寺	龍山通榮町	同	龍山寺
南山町	同	千代寺	仁川府花町	同	遍照寺
平壤外川面	大覺寺派	國泰寺	元山新町	高野派	元山寺

釜山港大廳町	智山派	金剛寺	木浦府務安通	同	大師堂
大邱府	同	遍照院			

密教名利篇終

# 大正僧寶篇

小野 清秀 錄

一萬二千の寺院、七千餘の正住、八千餘の末住職、我真言密教も亦實に濟々たる多士と稱すべし、然るに吾人が今茲に擧ぐる所は、略傳僅かに百人、高名を記するに止まるもの二百五十餘に過ぎず、左れば此れ以外に此れ以上に高僧碩徳の多々なるべきは勿論なれども、不肖寡聞にして、且つ精査の時日乏しきを以て、完からざるは大に遺憾とする所なり、最も不日再版改訂の機あれば、其際大に増補して、以て完璧に近づかしめんことを期す。

## 各派管長前管長

### 密門土宜兩師

密門宥範師は古義真言宗高野派管長にして、又真言宗各派聯合總裁なり、土宜法龍師

は仁和寺の門跡にして、御室派の管長なり、我密教新古兩派に於ける一萬二千餘の寺院、七千餘の住職、八千餘の末住職、實に濟々たり、多々たりと謂つべし、而かも世人が認めて以て、最も大なりと爲すものは、實に兩師に在り、茲に於てか吾人は特に大正實僧篇の初頭に相列して、以て一辭を加へたるなり。

密門土宜兩猊下、何等好箇の對照ぞ、吾人は此に雲照和尚を加ゆる能はざるを憾む、和尚の戒徳、密門師の學徳、土宜師の治徳、之れ實に古義眞言宗に於ける明治の三大家三傑と稱すべきなり、高野は大師が幽棲の靈域、女俗不入の神境、密門師が高野に在つて而かも殆んど終生山を出でざるの傾あるに反し、土宜師は御室の仁和御所に錫を留め、杖は既に米山麗水滿野に飛ぶ、山と御所講學と布教、兩師既に其所を得たり、密門師の碩學特に大日經に精通せるは、既に古今獨歩として一般の認むる所なり、土宜師は不二の大法、曼荼羅輪圓具足の教風を、其儘法務の上に活用し、一宗の平和と發展とに盡瘁せらるゝ十年一日の如くなるは、天下齊しく貝贖する所、末徒の深く感謝を表する所たり、兩師は實に東密界に於ける動靜の兩脈なり、否、神經中樞なり、吾人末徒の兩師に負ふ所のもの多きと俱に、兩師の責任や蓋し大なりと云ふべし。

### 泉智等師

泉涌寺派管長泉長老の過去の歴史には、語るべきもの多く、殊に御室派管長競争の如きは、今日に至るも猶吾人は同情の念を禁ずる能はざるものあり、そは兎も角も今や、我皇室所囑の泉涌寺長老として、一意専念護法の爲めに、老の既に至れるをも忘れて、東西に錫を飛ばし、傳法親教の勞を敢てし、殆んど寧日なきの有様なるは、上下の深く感泣喜隨して措かざる所なりとす。

### 長宥匡師

山階派管長勸修寺門跡たる長大僧正は、讃州の人、蓮生觀善師の現住地たる與田寺の出てして、高野山にては金剛三昧院主たり、師は尤も幸運なる人にして、又尤も不幸なる人と云ふべし、若し夫れ師をして高野派管長たらしめば如何、又御室派管長たらしめば如何、師の識見と膽力と果斷とは、何等か大事を爲さざれば止まざるべきなり、殊に師の長弟石原僧正の逝きたるは、大に惜むべし、然れども幸に佐伯師蓮生師の如きあり、亦以て後を善くするに足る。

### 鎌田觀應師

高野山中唯一の肉寺たる清淨心院に本營を据へ、山務を理すること數十年、當時實に鎌田師なくんば、夫れ高野を如何にせん、の觀ありたり、思慮周到にして、畫策適確、宗政家としては、實に土宜師と双壁と稱すべく、學は尤も釋論に精通し、密門師の大日通と相并んで、野山の兩關たり、今や出て、東寺派管長の任に在りと雖も、師を以て之を見れば、茲は一箇の餘業に過ぎざるべし、師が畢生の希望は野山の理想的大發展を期するに在るや、固より謂ふまでもなき所なりとす。

### 多田實圓師

醍醐派管長多田實圓大僧正は、廣島縣尾道市西國寺の出なり、西國寺は中國有名の大山にして、師の後任としては、現に有名なる文學士佐伯惠眼師あり、僧正は久しく中國の霸權を握り、識見德操一世に高く、上下の尊信他に異なるものありしが、今や一派の管長として、特に醍醐山惠印部の總統たる大任を負ふに至れり、蓋し同山の法幢此より益々壯なるものあらん、實に適材を適所に得たるものと云ふべきなり。

### 龍池密雄師

大覺寺派管長たる龍池大僧正は、當年曾て謀を帷幕の裡に廻らすの大軍師たり、又武者振り勇ましき急先鋒としての闘將たりしが、今や垂拱して無爲の化を布き、定徳堅固に、専心修法勤行を怠らず、以て範を垂れ、規を示し、末徒不知不識自ら其流に趨るの源を作せり、長者としての德操亦全たしと云ふべきなり。

### 箸藏善龍師

小野派管長隨心院門跡箸藏大僧正は、阿波國三好郡箸藏村箸藏寺の出なり、箸藏寺は準別格本山たる有數の大寺にして、檀信徒の多く尊崇の旺なること四國第一流に位置せり、而して同寺をして茲に至らしめしは、一に箸藏師の護法に篤く、法徳の高きの致す所たり、左れば蛟龍久しく池中のものにあらず、衆望の歸する所、遂に推されて管長の重職に登れり、師の今日ある固より其所なりとす。

### 伊藤宗盛師

智山派の管長、智積院化主大僧正伊藤宗盛師は埼玉の出なり、持戒堅固にして定徳高く、特に事相聲明に精通し、隱逸敢て名を食らざれども、久しく一派の長老として盛名あり、内外相信じ、上下互に尊び、遂に推されて管長の重任を負へり、三千の末徒は悉く稽首して之を迎へ、百萬の檀信徒は均しく歡喜して、之を奉ず、一派内に治まりて紛争を絶ち、法鼓外に振ひて、道光日に益々輝けり、亦以て旺なりと云ふべし。

### 福垣眞應師

眞言律宗の管長にして、破戒無慙の滴季に當つて、能く一代の師表と爲り、正法律の光輝をして再び中天の赫々たるものあらしめんと、誓願は、牢乎として、援くべからざるものあり、定徳堅固にして、犯すべからず、戒徳具足して、奪ふ能はず、臭穢濁亂の間に立ちて、正法佛身の光鎧陸離たるが如き、實に尊ぶべく、敬ふべきの極みなりとす、世或は誦ふて曰く、師は故淨嚴和上に彷彿たりと、蓋し亦得難き法器なりとす。

### 尾川照圓師(管長事務取扱)

師は愛知の産にして、曾て奈良に在り、久しく總本山の顧問官たりしが、今や千葉に住

して、現に宗務長たり、又管長事務取扱たり、集議即ち管長選舉者の一人にして、又管長候補たる資格を有する、一派最重の位地に在る人物なりとす、思想豊富、辯論快活、議政壇上に於ても、拔群の傑物なり、先きに豊山派の兩派紛擾を極むるや、遂に師を立たしめて、以て漸く今日の平和克復を見るに至れり。

### 權田雷斧師

師は越後の産、豊山派に於ける唯一の大人物なり、學識高邁、一世に秀て、京賦恬淡高潔にして、德譽中外に轟く、學者あり、德者あり、事務家あり、併かも學徳兼備、圓滿玲瓏師の如きは、輒く求むべからず、關西に於ける密門座主、關東に於ける權田大僧正、此れ將に我密教の双壁、東西の兩横綱と稱すべきか、然り而して、其の曾て豊山派管長たり、又現に豊山大學長たるが如きは、師の人格よりすれば、別に大なる價ある經歷と云ふに足らず、要するに現在の師は最早一宗一派の人物に非らずして、佛教界の全部、宗教界の總てに於ける、偉大なる一人なりとす。

### 瑜伽教如師



前智山派管長總本山智積院化主大僧正瑜伽師は、越後の産、其風采體格を一見するも如何に福德圓滿の妙相なるかを知るべく、温乎として玉の如き圓熟の性格は、排撥甚しき教界に於ても、一つの敵を有せず、上下の衆望を蒐めて、磐根錯節の際遂に能化管長の大任を負ひ、無爲にして化し、拱手して治を現はせり、師は尤も聲明に妙を得、又能く典故に精通し、一派の古例法式は一つに、其の指導に待たざるべからざるものあり、徳識共に一派の元老として、永久に尊崇せられつゝあり。

### 正城全鏡師

師は前々代即ち明治三十八年一月廿五日管長の職に上られたる一派の長老なり、越後國刈羽郡瀧谷村寶藏寺隆譽の徒弟にして、天保六年正月四日を以て生まる、曾て師と争ひ、憤然去つて豊山に登り、刻苦精勵具に辛酸を嘗め、後武州三保谷廣徳寺に住し、持戒堅固、上下の信望篤く、遂に推されて管長に晋めり、現代に於ける類例なき高德なりとす。

### 岩堀智道師

信州の人、文久元年を以て生まる、現に東京市本所區彌勒寺に在り、先きに同志の爲めに推されて管長の榮冠を受け、後ち當局の壓迫に依りて、其職を解き、今や自坊に悠々として、世の紛擾を避けつゝあり、資性洒落、論議風發、雄辯に於て、識見に於て、一派の雄一世の傑たるを失はず、師の如き達識の士は一派の如何を問はんよりは、寧ろ佛教界全體の爲めに、大なる活動を逞ふせんことを望まざるを得ず。

### 各派高祖列傳 (イロハ順)

#### 石川照勤師

師は成田山新勝寺の現貫主にして、在職既に二十一年、大僧正集議即ち管長候補者の最首位にして、又推選權を有せり、同師の事蹟に就ては、明治四十一年十月までの分を成田町に於て調査して、其筋に進達せし公文書あり、依つて其の肝要部分を左に採録すべし。

#### (一) 履 歴

僧正は明治二年十月十日を以て、本縣印旛郡彌富村に生る。明治十一年二月、十歳にして當山故原口照輪和上の室に投じ、十二年三月廿一日同山に於て剃染せられ

たり。加行、新加、交衆、受戒、灌頂入壇、本座役等の行位、形の如く歴修し。十九年大本  
山中學林全科卒業、廿一年同人社普通學修了、廿三年哲學館全科卒業、二十七年一月  
船岡芳勝阿闍梨に従ひ、報恩院一流再傳授、三十五年三月兩大會勳修、傳法大阿闍梨  
位を受く。(中略)

又三十九年四月一日を以て、日露戰爭に對する特殊勳功を以て、勳六等に叙し、瑞寶  
章を賜はる、其他宗内は勿論、一般社會より名譽職に推彰せられたるもの、一々之を  
擧ぐるの繁に耐えず。

(二) 性質 志望 德望

一 性質

謹嚴公正の四字は、能く僧正の大體を説明し得べし。(中略)

且つ多くの宗教家を見るに、高才有徳の人と雖ども、保守的思想に富めるは、其  
通弊なるが如し、然るに僧正は嘗て同人社、哲學館等に遊びて、文明的學事を致  
め、又明治三十一年より米國に留學し、更に歐洲を巡歴して、各國宗教の實況を  
觀察し、歸途印度佛蹟を巡拜して、同三十三年歸朝せらる、其學識見聞の、智徳を  
涵養せるにも由るべしと雖も、其思想の文明的にして、施設の進歩的なる、亦僧

正美點の一として、一般の認識する所なり。

二 志望 教育と慈善と公益とは、僧正が畢生の理想にして、着々其方針に向ひて  
勇進しつゝあり。(中略)

三 德望 其隆々たる施設事業、其高潔偉大なる人格は、能く一般を利益し、能く衆  
人を感孚し、隨て衆望之れに歸し、德澤の及ぶ所、信徒の群參、成田山の繁榮、亦從  
前に倍蓰せり。

(三) 受賞

明治廿五年十二月一日付、濃尾震災被害者救恤を第一着として、四十三年十一月廿  
四日、茨城縣下水害罹災者救助に至る、賞勳局其他當該官廳より、勳等以下賞盃賞狀  
等を受くるもの、恰も百回に及べり。(下略)

(四) 奉公一斑

一 二十七八年役 (日清)

縣下各聯隊出征參拜の將校兵士を優待し、紀念品を贈呈し、且つ山主自ら廣島  
吳等陸海軍病院を慰問し、金品を贈與せる等、努めたりと云ふべし、然れども今  
其經費は算出するに由なし、只二三の明瞭なる寄附金を計算するに、其額壹千

貳百參拾壹圓貳拾壹錢なりと云ふ。

## 二 北清事變

陸海軍恤兵部へ獻納金五百圓。

## 三 三十七八年役 (日露)

明治三十七年二月十一日、宣戰の大詔煥發してより、三十八年十月十六日、平和克復の詔勅を拜するまで、毎朝戰捷祈念の大護摩を修せるが如きは、當山の歴史上當然の職務なるが、其他

布教師を派遣し、出征首途及留守將校等の布教六十一回 (1)

縣下各聯隊の帝望に依り、導師式衆を派し、造花香料を寄附し、供物を施與し、其隊葬を執行せるもの十三回 (2)

同上の式に依り、分骨式執行二十一回 (3)

戰病死者及斃馬供養法會二回 (4)

各聯隊へ神守神酒慰問品を贈寄し、慰問せること十八回 (5)

將校家族を請待して、慰問饗應四回、其人員二百四十人 (6)

豫備病院本部、澁谷、氷川、戸山、廣尾の各分院を慰問し。手巾、巻煙草、菓子目録等

## の寄贈八回 (7)

縣下九個聯隊へ、御守寄贈壹萬八千八百五十八枚 (8)

俘虜慰問物、寄贈一回 (9)

戰時中行軍登山軍人へ、酒肴饗應七十六回。其人員將校下士三百二十三人、兵

士壹萬四千八百五十人 (10)

陸海軍人の個人參拜者へ、配肴饗應紀念品贈呈。陸軍千七百七十二人、海軍八十六人 (11)

歩兵第二聯隊(佐倉)出征見送二十一回 (12)

縣下九個聯隊凱旋歡迎神酒寄贈十六回 (13)

三十九年二月十七、十八兩日に互り、戰病死者追弔大法會執行、附近府縣の遺族請待饗應 (14)

以上の外軍資金獻納、陸海軍恤兵部、赤十字社救護費、帝國義勇艦隊建造費を始とし、戰時中各種の寄附金は、總計金四萬四千七百拾圓三拾貳錢六厘の巨額に及びたりと云ふ。

## (五) 宗門興隆及義務外寄附

大正僧賣

成田山は關東三山の第一として、其宗派に對して多大の義務を負ふことは、固より其所とす。然るに僧正は只義務の負擔を以て満足せず。更に新寺を建立し、廢寺を復興し、其他一般宗教界に對して、精神的に、物質的に、貢獻せる所亦尠なからず。今其物質的に新寺を建立せるもの二ヶ寺。

北海道函館區 函館寺。同天鹽國 天真寺  
廢寺再興四箇寺

安房國保田村 歡喜院。下野國前橋市 清淨院。宮城縣石ノ卷 長榮寺。茨城縣太田町 眞福寺。

其他創立は、照輪照鳳兩和上の時代に係るも、現僧正の盡力に由りて發展繁榮せしものを擧ぐれば。

東京深川公園 不動堂  
横濱野毛山 延命院  
北海道札幌區 新榮寺  
埼玉縣川越町 本行院  
愛知縣岡崎町 貞壽寺

其他教會所出張所の如き、多くは現僧正の時代に入りて、隆盛の域に赴きしものとす。

又惣本山其他に對し、義務外に係る寄附及義捐金の帳簿上に記入せるものゝみを積算するも、尙壹萬千九百四拾七圓四錢九厘に達せり。

(六) 一般寄附

慈善公益に關し直接間接に、或は資力を供給し、或は保護を與へ、其事業を獎勵せるもの亦少なしとせず。今單に此等に補助義捐せる金額を概算するに、金四萬三千五百六拾壹圓四拾九錢五厘の巨額に及べり。

(七) 小學校増築

尋常小學六年制度實施に就て、校舎の狹隘を感じ。是れが増築を要せし際、成田町會の懇請を容れて、二階建及平家建貳百三拾坪の増築を爲し、是を成田町へ寄附せられたり。其經費は金壹萬六拾六圓四錢を要せり。

(八) 學生補給

中學程度以上の學生にして、明治三十三年以降同四十三年に至る、十一年間、僧正補給の下に修學せる全人員は、百四十四人にして、其補給金額は、金三萬千八百八十五圓

七拾壹錢に達せりと云ふ。

(九) 成田山五大事業

所謂成田山の五大事業なるものは、近來稍や世人の注意を喚起し、彼の内務省に於ける各種の講習會等には、必ず參考として視察せしむるに至れるは(下略)

一 私立成田中學校

時世の進運に伴ふ教育施設に於て、中等教育の最も必須なるを感じ。明治二十年中、前任三池照鳳師は成田英漢義塾なるものを創立せられたり。明治廿七年石川僧正住職たるに及び、其遺志を繼承して、専ら育英事業に熱中せられ。遂に三十年に至り、現位置を撰定し、新たに校舎を起し、卅一年十月七日、文部大臣の認可を得て、『私立成田中學校』と稱するに至れり。爾來常に貳百五十名内外の生徒を收容し、卒業生を出すこと十一回。百九十四人に及べり。校舎新築其他重なる經費は、明治四十三年度末迄に、金拾萬貳千百五圓貳拾錢を要せりと云ふ。

二 私立成田圖書館

圖書館が社會教育機關として、最も必要なることは一般の認識する所なり。然れども圖書館の經營は、實に無限の財力と、非常の熱心努力を以て之に當るにあ

らざれば、到底完全を期すべからず。石川僧正は元來讀書癖の人、讀書は實に僧正の生命なり。明治卅三年歐米漫遊より歸朝せらるゝや、直に圖書館の設立に着手せられ、卅四年二月設立認可、卅五年二月二日を以て開館したり。爾來館務の發展整理に盡瘁し、卅六年十二月より講話會を組織し、卅八年二月より館外帶出の便法を實施し、四十年三月書庫竣成、四十三年十月印刷目錄を刊行し、四十四年一月より夜間開館を實行し、着々隆盛の域に進みつゝあり。

(イ) 藏書 四萬二千八百〇四冊

内 和漢書 四萬八百四十五冊

洋書 千九百五十九冊

(ロ) 經費 金五萬九千五百八拾四圓六拾錢九厘

内 建築費 金貳萬九千八十三圓三十七錢八厘

圖書購入費 金壹萬九千五百七拾六圓八拾七錢三厘

通常費 金壹萬八百二十四圓六十六錢八厘

(但創立の際、新勝寺舊藏書、及石川僧正手許より移したる、約壹萬五千冊の價格。并に購入費寄附等の金額は、此内に算入せず)

大正僧賣

### 三 私立成田幼稚園

國民教育の目的を完全ならしめんと欲せば、學齡未滿の幼兒時代より、善良なる保育を施さざるべからず、成田町有志者茲に見る所あり、幼稚園設立の議を首唱し、石川僧正を園主兼園長に推戴し、明治三十八年六月一日を以て、成田尋常小學校の一部を借りて、保育事業を開始したり、創立の際は、金五百七拾四圓の有志寄附金を以て、一時其經費を支辨せるも、斯の如き姑息手段は、到底永遠の計にあらず、又一方には帝國曠古の大戦役たる日露戦争も、稍や終局の曙光を認むるに至りければ、其戰捷紀念かたぐ、石川園主は、斷然是を新勝寺直轄事業と爲すことに決し、地を成田町字向臺の高所にトし、同年十月起工、翌三十九年三月竣功したり、爾來常に百名以上の兒童を保育し、卒業式を擧ぐることに既に六回、總敷地三千六百四十三坪、總建坪二百五十八坪五合、其設備の完全なる、東洋第一の稱あり、創立已來成田町共有金及有志寄附金は、二千五百七十四圓にして、石川園主の出資は一萬八千九百八十六圓九十七錢六厘に達せり。

### 四 私立成田高等女學校

小學校令改正の結果として、一時高等小學校存廢問題は、全國各地に起り、施て地方經濟の紛擾を醸せるもの亦尠なからず、當成田町に於ても其數を免るゝこと能はず、當事者の深く憂慮せる所なりしが、理事者及町會議員等、慎重審議の末、現在の高小學校建物敷地を新勝寺に寄附し、是を以て女學校と爲し、一方尋常小學校の敷地を擴張し、之れに相當なる増築を爲して、高等小學校を併置するの案を立て、而して其女學校設立及小學校舎増築の二件を、石川僧正に懇請したるに、僧正の教育に熱心なる、直ちに其二件を快諾せられたり、此に於て成田町は高等小學校存廢問題より、却て新たに女學校を産み出し、地方女子教育の爲めに、非常なる幸福を受くるに至りしは、一に僧正の恩惠なり、依て成田町に於ても唯手を袖にして、僧正の施設にのみ俟つべきにあらざれば、全會一致を以て新設の女學校へ、毎年金五百圓づゝを補助することゝなし、且つ理事者議員自ら發企人となり、有志者の寄附金を募り、右女學校創立費の幾分を補ひ、以て僧正が高誼の萬一に酬ひたるは、頗る其當を得たるの擧と云ふべし、斯くて四十一年四月一日を以て開校し、本年は其第一回卒業生を出すべきに當り、時勢の要求は到底姑息的經營を許さず、遂に斷然高等女學校と爲すの議を決し、去る二月十三日を以て文部省の認可を得て、四月一日の新學期より其組織を一變したり、而して從來の女學

校としては、去る三月二十一日を以て第一回卒業生二十六名を出したり、今創立以來有志寄附及町費補助を除き、石川校主の出資額は、金八千九百〇四圓拾錢二厘に上れり。

#### 五、私立成田山威化院

本院は元千葉威化院と稱し、明治十九年五月廿四日の設立に係り、其當時は縣下各宗寺院の協力を以て維持し來りしが、年月を経るに隨ひ、益々維持の困難を感じ、遂に其懇請に依り、明治廿四年一月、新勝寺先代三池照鳳師獨力を以て之を負擔せられ、直ちに院舎の新築に取掛り、同五月を以て落成したり、廿七年石川僧正任職となるに及び、同院長の任務を繼承し以て今日に至れり、然るに其建物は漸次腐朽の箇所を生じ、茲に再築の必要に迫り、明治四十年斷然之を新築することとなし、同年六月より技師に命じて設計せしめ、且つ監督上、經營上、之を成田山内に移すの便宜なるを感じ、敷地を成田山上俗に茶畑と稱する處に擇び、同八月より建築に着手し、越えて四十一年三月廿五日、落成式兼移轉式を執行したり。

(イ) 總敷地 千貳百坪

(ロ) 耕作地 六百六十六坪

(ハ) 總建坪 百九十八坪五合

外に附屬建物 二十坪

創立以來有志慈善寄附金三千七百五十八圓を除き、四十三年度迄に支出せる建築及維持費は、金二萬九千五百五十九圓五十二錢二厘なりと云ふ。

#### (十) 總 結

上來僧正の教育慈善奉公、公益等に關する事業の一斑を略記せり、而して僧正の今日までに於ける、義捐寄附等の金額は、三十六萬餘圓に上るに拘はらず、其目的は公共の利益を増進するに在りて、一絲一毫も自己若しくは營利的意味の含まれざるは、實に宗教家として、將た社會の一員として、尊崇に値せずんばあらず、且僧正は尙春秋に富み、其施設事業は年を逐ふて増進するのみなれば、其將來に於ける發展は、蓋し測るべからざるものあらん。(中略)

尙前各條に於て、其支出額の概略を擧ぐと雖ども、今便宜上僧正の事業を、一目に略易からしめんが爲めに、更に一括して左に分類掲載すべし。

#### 總支出金額

一金三十六萬二千三百四十二圓二十四錢九厘

大正僧費

内金四萬六千四百四十一圓五十三錢六厘

戰時奉公

金壹萬千九百四十七圓四錢九厘

宗内義務外支出

金四萬三千五百六十一圓四十九錢五厘

一般義捐及寄附

金二十六萬〇三百九十二圓十六錢九厘

教育學事費

以上

吾人十年前曾て某誌に我國佛教界の三傑と題して、大谷光瑞、石川素童及師を評論せり、吾人の所論は昔も今も固より變ることなし、然るに頃日或は傳ふ、師は既に五大事業を完成したれば、將來大に海外に向つて發展すべし、云々と、吾人は未だ其の眞否を確めざるも、是れ或は高邁なる師のたどるべき順程ならんかと思惟するものなり、蚊龍豈池中のものならんや、斯くて師は最早日本佛教界の傑物にのみ止まらずして、世界的大宗教家、世界的の偉人たるに至るべきか。

### 泉最善師

安政二年を以て生まれ、伊賀寶泉寺に在り、着實の護法家として一派に重きを爲し、又地方に於ける重鎮なり、數十年間一日の如く、寺門の爲めに盡して、曾て懈怠なく、眞の

至誠は神に通じ、人を動かすものあり、此頃管長候補者として推舉せんとするの議あり、又以て眞の人格を知るに足らん。

### 石堂惠猛師

師は慶應義塾の出身にして、我真言宗に於ては、最初の新智識時代的指導者たり、六大新報に據つて、諤々掾大の筆を揮ひ、或は教理上に於て、或は宗政上に於て、時運を鞭撻し、當局を開導せし、颯爽たる英風は今猶目睫に残れり、後ち勸修寺總務として長門跡の下に其整理興隆を勉め、又聯合大學教授として令名高く、今や和州大安寺に在つて文筆に親しみつゝありと云ふ、其高風轉た欣慕に堪へざるなり。

### 伊比精教師

師は越後苅羽郡上郷村の出、天保十四年三月二十一日生る、今歳既に還曆なり、豊山に留學すること十四年、現下羽州湯殿山大日坊に住す、私財を捨て青龍寺本堂、照光寺の觀音堂及仁王門、又行福寺の馬頭觀音堂を再建する等宗門の爲めに盡せしこと、一再にして止まらず、殊に徒弟の教養に意を用ひ、現に一寺住職たる者三人、教弟十餘人あり



り、亦以て勉めたりと云ふべし。

### 池田照誓師

師は久敷印度に在りて研究を積まれしと云ふ大なる經歷を有するの他、今や成田山新勝寺の院代として、近き將來に於て、貫主石川大僧正に代つて住職たるべしと云ふ絶大の未來を有する好運兒なり、石川貫主を家康とせば、師は秀忠か、若し又先代先々代を家康秀忠とせば、石川僧正は將に三代家光にして、師は八代吉宗たらざるべからず、師は濃厚玉の如き人格を有す、英邁一代に卓絶せる石川師の後を承くるには、尤も其器を得たりと謂ふべきなり。

### 五十嵐光龍師

東洋大學即ち舊哲學館の出身にして、本據は埼玉なり、一派の布教師として頗る盛名あり、又從軍布教師として佛教界に重きを爲せり、催眠術の實施家としては鼻祖と稱せらる、曾て旭宗務長の下に教學課長たり、今や布教師として、又宗會副議長として宗派の爲めに盡力せらるゝのみならず、毎に各種の會合青年傳道會等には、一派の代表

者として出動し、大に勉むる所あり、智山派の爲めには肝要缺くべからざる一人なりとす。

### 井村惠嚴師

師は高野派中本寺たる徳島縣板野郡板西町寶嚴寺に住す、天成の護法家にして、能く弘教の誠を盡し、寺門の興隆末徒の誘導に勉め、内外の尊信篤く、近時の僧寶として亦容易に得難き法器なり。

### 濱野堅海師

師は明治元年の生れにして、東京府下西新井總持寺の出にして、現に其住職たり、同寺は西新井の大師と稱し、以前は川崎大師をも凌駕せし隆盛を極めたりしが、夫が爲めに却つて財政を紊亂し、多くの負債等を生じたりしを、師の住するや、拮据精勵大に寺門の革清を圖り、今や財政の整理と共に、一方には講社等の新たに組成せらるゝありて、大に形勢を轉廻し、昔日に超ゆるの興隆を見るべく、此れ一に師が護法興隆に熱誠なるの致す所なりとす、今や漸く五十に垂んとす、今後の活動猶頗る囑目すべきもの

ありとす。

### 蓮生觀善師

學識あり、徳操堅固にして、識見極めて穩健、八面玲瓏として温乎玉の如きの性格を有し、而かも内には熱烈火の如き愛法憂宗の誠を隠し、上は長老先進より、下は檀信徒の末輩に至るまで、信賴愛重せざるものなく、實に一代に卓絶せる法器たり、今や聯合法務所第一部長にして、其職に在り、教學の發展此より大に觀るべきものあらん。

### 長谷寶秀師

土宜管長の法資、宗乘は固より台學に禪學に各教派の深奥に達せざるなく、普通學に於ても頗る精を極め、弱冠より疾く大學教授の位に在りて、其識見は屢々人を驚かすものあり、其著作亦頗る多く、特に弘法大師全集の如きは、非常なる大難事業たりしに係はらず、遂に之を成功し、教界の爲め、學界の爲め偉大なる効献を爲せり、師の如きは時代的宗教家として尤も尊重すべく、尤も偉大なるものなりと爲す。

### 春山一覺師

富山縣射水郡水戸田村の人、弘化元年九月八日出生、現時富山縣日石寺の貫主にして中僧正たり、六歳にして日石寺第十二世覺傳師の門に入り、後ち十三世覺賢師に密教を受け、泉涌寺鼎龍曉師に宗乘を學び、儒を岡吳陽氏に傳へ、或は師範學校を卒りて教育界に在りし事あり、應應元年廿一歳にして同縣日置寺に住し、明治十七年日石寺に轉ぜり、爾來二十有三年、地方學頭管理に再選し、經藏灌頂堂の建立より、通路の改修を企て、險坂を車道に變じ、風致上幾多の設備を爲し、天下有數の樂園と化せしめたるが如き、其の努力の大なる、貢獻の偉なる、筆紙に盡し難きものあり、且つ徒弟の教養に意を用ひ、現に大學教授たるものさへあるに至れり、亦盛なりと云ふべし。

### 林鑿識師

師は群馬縣前橋市及高崎市共に根據を有し、地方の管理として、頗る重鎮たり、識見あり、學識あり、徳操あり、友誼に篤く、弘教布法に盡すこと十年一日の如し、爲めに上下の信賴固く、名聲一時に冠たり。

### 丹生屋隆道師

富田小林兩師と俱に、豊山派新進の三賢たり、富田師は政略に於て、小林師は筆舌に於て、師は調和温厚の徳に於て、互に參差として其美を濟し、以て一時を震撼せり、曾て宗務長に推されしも就かず、今や一派の争擾を外にして、南海の一隅に歸休し、徐に大勢の轉廻を待ちつゝ、一意寺門の興隆と、郷黨の革清とに勉めつゝあり、學智識見共に一世に秀て、時代的宗教家として深く推賞するに價す。

### 法輪宥淳師

天正の頃淺井喜左衛門なる勇士あり、戰亂の慘を厭ひ、去つて越後に入り農に歸し、論瀨を開拓し、喜左衛門新田と稱し、子孫繁榮現に十戸に及ぶ、師は其の宗家にして父を淺井久七と云ふ、弘化二年六月廿二日生まる、嘉永二年入寺し、其の六年淳榮師に就て剃染す、爾來野山其他各所に於て、受法研究し、又御室仁和寺純仁法親王に謁しては令旨を賜はり、神佛合同大教院時代には、堀教成、原坦山、佐田介石、福田行誠、密道雄、高岡増隆寺の諸師に就て、神儒佛の三道を研め、京都南都に進んでは、性相各派の宗義を叩き、明治三十四年僧正に補し、卅五年新潟縣法務支所學頭に任ぜらる、四十年四等教師權中僧正に補す、師天資誠實にして、能く他の苦を救ひ、又修法を好む、戰時には恤兵の舉

に勉め、常に國利民福を志と爲す、今歳齡七十一、猶鏗鏘壯者を凌ぎ、益々護法民福の爲めに盡しつゝあり。

### 富田數純師

信州の産にして、曾て智山の宮本僧正の資たり、今や東京府下中野の寶仙寺に在り、師は其學識に於て一頭地を抜くものあり、其筆に於ても亦一大文學家たるべく、而かも年僅に四十にして一派の輿望を負ひて宗務長たるが如き、其徳望の高きを見るべく、其手腕の敏辣なるを見るべく、豊山一派は言ふに及ばず、佛教界を通じて又容易に得難き一大人物たるなり、師の著なる新義眞言宗史を始め、幾多金玉の筆跡を遺し、斯界に貢獻するの多大なるものあるは勿論なるが、特に其大著秘密辭林の如きは我密教に於ける無二の完璧と稱すべきなり。

### 東條隆哲師

早稻田大學文科の出身にして、時代的宗教教育家として、既に定評あり、意思の強固に

して自信の強き、何ものも之を動かす能はず、現時の宗教界には慚く求むべからざる一偉材にして、古義密門中常に一異彩を放てり、學生及少壯教家は特に師を推尊し、其潜勢力頗る偉大なるものあり、風雲に乗じて大に其敏腕を揮ふの機、蓋し遠きにあらざるべし。

### 千葉賢永師

東京府下龜戸普門院に在り、龜戸の天神と併稱せらるゝ普門院は、今年新たに客殿を建築せり、其經費實に二萬三千圓、東京市内の各宗寺院にて、淺草觀音の客殿傳法院を除くの外、決して類例なき宏壯完美のものなりと云ふ、而かも之れ師が自ら求めて爲せしにはあらず、檀信徒が師の徳に歸依するの餘り、強て造りしものなりとぞ、師は溫良恭讓、僉衣儉素、宛然たる一件僧の觀ありて、他の僧正等の如く、尊大にして身邊金色燦爛たらざれども、濫乎たる玉の如き徳操は、自然に人をして尊信の念を篤からしむ、又師は深く事相に通じ、一宗の大事を永く後世に隆盛ならしめんが爲め、屢々灌頂會等を起し、終始一貫着實に護法の爲めに盡しつゝあり。

### 岡本慈航師

識見卓越、學徳兼備、人格極めて高潔にして、三十年來宗家の爲めに盡瘁し、熱誠事に従ひ氣力能く斷ず、布道家にして、又教育家なり、教育家にして、又政治家なり、政治家にして、又事業家なり、議政壇上には、諸々の卓論を聞くべく、中學校長としては、後遊陶黨の至れるを見るべし、宗教家として僧侶としては、師の如き、完璧の資質は容易に求むべからざる所なり、實に古義全派の一大重鎮たりとす。

### 尾住秀憲師

智山派の根據たる埼玉に於ける形勝の位地たる三學院に盤居し、其向背は常に一派の大勢を左右し、或は剛に、或は柔に、活殺自在、曲折變幻、以て容易に其眞髓を捕捉すべからざるものあり、資性剛毅、同僚に篤く、後進の幹旋に勉め、確乎不拔の潜勢力を有し、何ものに取りても隠然たる一敵國の觀あり、貴族派に於ても、當局に於ても、可成相敬重して、隙を開かざらんことに勉めつゝありと云ふ。蓋し師一度奮つて起つあらんか一派の大勢は如何に運轉するや測り難きものありと。

### 小山祐善師

臺灣臺北弘法寺の開山なり、師が此の新開地に渡り、傳道を企て、一寺を建立せんとせしは、日清戦争當時よりの希望にして、其後十數年間内地と臺灣との間を往復し、幾多の辛酸を経て漸く素志を達せり、其苦心談の如きは實に一部の立志傳小説としても頗る大なる價あるものとす。

### 大江存良師

師は越前三國の名刹瀧谷寺の貫主なり、學徳一世に高く、定徳亦堅固にして、檀信徒の尊崇信賴非常に篤く、寺門の興隆より徒弟の教養に力を盡すのみならず、地方の布教より公共事業に意を用ひ、北陸の重鎮として世に知らる、由來北陸地方は新潟縣を除くの他、我真言宗は寺院も少なく、人物もなく萎靡振はずして、真宗獨り猛威を振ひ、餘宗は殆んど物として扱はれざるの觀あり、然るに師の三國に在るや、真宗の如きも、禪宗の如きも、亦膝を屈して其高風を仰げり、亦以て偉とするに足る。

### 大澤眞明師

埼玉縣兒玉郡東兒玉村長福寺の現住にして、護法篤志の君子人なり、能く後進を誘掖

し、友僚に對する情誼厚く、上下皆稱せざるなし、研究講習日夜怠らず、地方の弘教布法に盡瘁すること多年一日の如く、寺門亦日に榮へ、教風隣近に洽し。

### 大島賢照師

師は千葉縣市原郡菊間村千光院に在り、文筆を能くし、世出世の學科全般に亘り日夜研鑽怠らず、時代的新智識の收得に勉め、識見頗る聞くべきものあり、且つ護法弘教の念篤く、宗門の爲め、寺門の爲め、身命を抛ちて努力しつゝあり。

### 大平智城師

徳島縣阿波郡八幡村大字切幡切幡寺の山主にして、同寺は大師修禪の際天空より幡一流降りて兩斷し、一は西に飛び、一は此山に留まれりと云ふ奇蹟を有する靈場にして、四國第十番の札所なり、師は斯る名刹に住して、一意其の責を誤まらざらんことを勉め、護法弘教の念は鐵石をも貫くべき慨あり、爲めに上下の信賴篤く、賽者は日に踵を接し、寺門の隆榮月に加はり、宛として地方頭守の觀あり。

### 和田大圓師

眞言宗各派聯合布教の總監なり、大師教會本部長なり、我眞言密教の威權は師に依つて始めて保持せられ居るの觀あり、師の渾身は悉く之れ布教師として形成されたりと云ふも不可なく、其莊重なる態度、圓熟せる熱辯に加ふるに、高邁の識見と、豊富なる學識とを以てし、好箇天成の宣教者たるなり、而かも師の長所は獨り茲に止まらず、其政治的手腕に於て、將又統御の才量に於ても、頗る拔群のものあり、現に聯合宗會議長として、令名隠れなく、適くとして佳ならざるなきの慨あり、亦以て容易に得難き偉材たりと云ふべし。

### 渡邊定勝師

茨城縣鹿島郡輕野村般若寺に在り、法臘既に四十餘年、一意寺門の興隆に盡し、護法の熱誠は老來益々其度を加へ、殊に心神の堅固、身軀の鏗鏘たるは壯者を凌ぐものあり、而して又其村治公共の事に對する努力は十年一日の如く、循々として怠らず、縣郡の當局者にして如何ともする能はざる、葛藤若しくは難治の事件起る事あるも、師一たび足を擧ぐれば如何なる難事も忽ち瞬間に解決せし實例少なからず、爲めに上下の歸依尊信頗る篤く、智山派に於ける地方の一重鎮たるを失はず。

### 脇龍曉師

徳島縣板野郡板西町大寺金泉寺の山主なり、金泉寺は四國第三番の靈場にして、同地方に於ける有數の名利なり、師の熱誠は能く此の支持して、益々發達せしめ、法雨遠近に濺ぎ、道譽日に揚り、佛日の光長へに輝けり。

### 和賀行識師

栃木縣鹿沼町寶藏寺に在ること三十一年、其の間頽廢せる殿堂を修繕し、且つ徒弟の教養より、文書講讀の布教に勉むる等、護法の念厚く、爲めに特に僧階二段を進められたることあり、師の寺門興隆の苦心談に曰く、予が此寺に入りし當初は全然無一物にて、一日六錢の貸布團にて寒を凌ぎたる程にして、苦心に苦心を重ね、檀家一戸より二錢三錢といふ零細の金を集め、十年にして、遂に間口十二間、奥行八間半の本堂修繕を完成し、目下五年計畫にて二千圓を集め、修繕費及祠堂金と爲す筈なり、又今回の御大典紀念としては、同寺に大藏經購入の盡力中なり云々と、其熱誠其忍耐到底常人の企及する所に非らず、又以て教家の一異材と稱すべきなり。

### 神谷俊恭師

江州の産にして、故寶仙寺寬尊の徒弟たり、現に東京府下新井の梅照院、即ち有名なる新井藥師の住職として、聲名一世に高し、人と爲り温良にして、勤儉驚くべきものあり、寺門は日一日と繁榮し、日々の參詣者幾千を以て數ふべし、而かも師は韜晦して世に知られんことを好まず、徐々後世の計を爲すと云ふ、當時亦得難き一人物と稱すべきなり。

### 加藤精神師

師は東京府下増戸の大悲願寺に住する豊山の雄將なり、其頭腦極めて明晰にして、理非曲直を判ずる恰かも秋官の如きものあり、曾て豊山公論派を提げて奮闘し、文部省當局に肉薄せし、其武者振の勇しきは、實に宗教界空前の壯觀たり、今や總本山長谷寺再建局長として、最も困難の位置に立てり、師の鬼斧は、今後に於て層一層猛烈に揮はるゝならん。

### 金武順道師

京城新町遊廓の西方高地に、一大堂宇あり、之を高野派眞言宗寺院光雲寺と云ふ、賽者日に數百を以て數ふべく、檀家亦千餘に及ぶ、此れ金武順道師が十數年の歳月を費し、拮据精勵苦心悲惨なる經營に爲る所なり、海外傳道の困難は、事實其局に當りしものにあざれば容易に知る能はざるなり。

此他朝鮮にては澤光範、岡本宣乘、頃日沒、羽尻昌仁、内海想雲師等大に勉めつゝあり。

### 神野實雄師

北海道の中樞札幌區成田山新榮寺に在り、師多年一日の如く、拮据精勵以て、日に新に月に新に、寺門旭日の如く榮へ、成田不動尊の靈威を北門に輝しつゝあるは、何人も知る所にして、今更に贅するの要なし、只茲に特に一言すべきは、師は斯る頻繁なる寺務を執りつゝある間にも、常に時代的新智識を吸收するを怠らず、新刊の書冊雜誌の如きは、不斷座右に山積して、閲讀を怠らずと云ふ、亦以て稀に見るべき篤志家と稱すべきなり。

### 横山義仁師

茨城縣新治郡上大津村神宮寺の現住職にして、弘法護門の念篤く、寺門日に榮へ、教益月に弘まり、上下皆其の徳に依る、實に近代容易に得難き教家なり。

### 田中照心師

下總の人、嘉永五年を以て生まる、佐倉東勝寺の現住なり、東勝寺は有名なる義民佐倉宗五の靈を祀る所にして、成田山と其繁榮を競ふに足るものあり、元と智山に屬したるも分離以後は豊山に移れり、十年一日の如く寺門の興隆に勢力を盡し、其成績頗る見るべきものあり、穩健の護法家にして、當世には亦得難き一偉才なりとす、師は又集議の一人にして其首位を占め居れり。

### 田中敏道師

智山に於ける唯一の學者なり、曾て智山勸學院を司りて、多くの後進を誘導陶冶せしが、今や佐渡の大寺たる蓮華峯寺に在りて、大に地方の教權を興隆し、且つ寺門の繁榮に盡瘁せられつゝあり、師の如きは學識に於ても、徳に於ても、又時代的宗教家としても、共に有數の人物にして、一派の重鎮、北陸の一大權威たるを失はざるなり。

### 玉瀧義秀師

千葉縣房州に在り、一州の死活を其手裡に收め、清澄山の青木宥如僧正すら、其威勢には腫若たり、實業に政治に一つとして通ぜざる所なく、機智縱横、八面六臂の大秀才なり、曾つて庶務課長として辣腕を揮ひ、機鋒鋭透、其出沒容易に濫睨すべからず、師は正田五十嵐師と同じく春秋に富み、前途猶長し、蓋し大なる將來を有する戰將たりと謂ふべし。

### 玉木實嚴師

島根縣石見田摩邇郡井田村高野寺の現住にして、法務所支所長の任を司り、宛として、舊藩主の觀あり、實に該地方の重鎮なり、天成護法弘教の念篤く、宗門の爲め、寺門の爲め、公共の爲めには身命を惜まず、熱誠を盡し、上下の信賴頗る篤く、法雨遠近に濺げり。

### 谷信讚師

師は久しく高野大學に在り、學識深奥、筆舌亦群を抜く、友誼に篤く、護法弘教の實到る



所に顯はれ、今や師跡たる徳島縣板野郡里浦村寶珠院に在りて、兼ねて數寺を攝す、能く後進を誘掖し、亦大に公共の爲めに盡し、青年男女の爲めに指導懇切をらざるなし、一派亦特に重きを寄せ、内外の歸依頗る篤し、實に是れ近代的完璧の敎家と云つべきなり。

### 高橋了照師

東京府下南足立郡東淵江村養福寺の現住にして、豊山派に屬す、其名現はれず、齡亦四十餘に過ぎざるも、寺門の興隆に盡し、護法の精神堅固なるは驚くべきものあり、特に名聞榮達を求めず、密に私資を捨て、救濟感化の事に盡し、又個人的傳道を企て、大に法施の實を擧ぐる等遂に隠れたる宗敎家、隠れたる偉人物として尊重せらるゝに至り、宗敎家としての上乗なる人格を有せり。

### 高木陽範師

師は東京府下多摩村の産、齡は未だ三十を越へざるも、現に静岡縣の大和村西樂寺に住し、又千葉縣房州の富浦海光寺を兼ね、資性温厚篤實にして、護法の念強く、他の爲

めに竭すこと尤も忠實なり、文筆に巧みにして、常に青年の子弟を敎化し、郷黨頗る信賴する所あり、近時の若壯者に容易に見るを得ざる法器なりとす。

### 津田實英師

師は大和北葛城郡當麻の西南院を本據とす、高德碩學の譽は夙に宗内に響けり、今や聯合法務所第四部長として、其重職に在り、資性堅實にして、思慮周密、苟くも事を忽にせず、護法憂宗の念篤く、一度信じて起つ時は、水火も猶辭せざるの概あり、自ら求めざれども上下の信賴篤く、宗治上に於ては頗る重要な偉器たるを失はず。

### 根岸榮山師

東京府下北豊島郡日暮里町養福寺現住にして、護法篤志の人、寺門の繁榮日に進み、内外の信賴頗る篤く、府下唯一の名刹たるに至れり。

### 永見快賢師

安政二年の生れにして、初め大宮如意輪寺に在り、故關大溪師を友とし、好く、其没する

や東京府下中野寶仙寺に轉じ、又高城前管長の寂するや、遂に撰ばれて音羽護國寺の貫主に晉めり、師は法務所時代より事務に従事し、事務家としては、一派中尤も長き經歷を有し、又財政に通じ、能く一派の財務を整備せり、細心能く事を辨じ、溫容篤實以て人に接す、茲を以て聲望遠く群を抜き、一派重要な人物として元老の實勢力を有し、大山に御して隱然無冠の管長たるの概あり。

### 直樹大本師

愛媛縣温泉郡道後町石手寺の現住なり、同寺は古來頗る靈場にして、堂宇壯宏雄大、四國第五十一番の札所なり、現に保存金を下賜せられ、舊移轉地としての名利たり、師の同寺を督するや、一に寺門の興隆を念とし、且つ檀信徒の教導感化に力を盡し、賽者日に榮へ、内外均しく其徳を仰がざるものなし。

### 浦上隆應師

師は和泉の人浦上駿平氏の嫡男にして、安政三年二月四日に生る、幼少にして廣瀬先生の塾に入て、漢籍及び詩作を學ぶ、明治三年春紀州高野山に登り、通應阿闍梨に隨て

出家し、別處榮嚴大和尚に隨て野澤の諸流を傳へ、東禪城僧正實鑑師等に就いて、本宗の教相を修め、涌泉寺旭雅大僧正に隨て俱舍唯識因明學を究め、其他花嚴天臺時宗淨土の碩徳に隨ひ各宗の蘊奥を傳ふ、又雲照和尚の室に入り、宗學律儀を窮め、印爾を傳へ戒脈を繼ぎ、宇宙の萬法は緣生無性無性緣生なりと徹通悟道し、常に摩訶般若波羅密多を唱導し、以て煩悶者を慰安し、極樂の境界に導くを業とす、後京都東寺の總覺に聘せられ教授たること數年、又高野山大學に教鞭を執ること明治九年より同四十一年に至る、其間二十五年より三十四年に至るまで雲照和尚を輔けて十善會及正法夫人會を擴張し、那須雲照寺に往ひては東北佛教會を創立して般若十善を鼓吹し、學筵を開いて青年僧侶を教育す、現今高野山大本山寶壽院住職にして山内山外五百餘ヶ寺の門主の重位にあり、其他横濱東福寺高野山眞別處圓通律寺を兼任し、同寺の荒廢を復興し、廣く山地を得大に植林す、又東福寺の本堂山門を再築す、其著書に至ては眞言宗綱要、般若心經圓通錄、摩訶般若、苦悶者の慰安、眞言宗安心、佛教通安心、宇宙原因論、心經秒鍵圓通錄、いろは本義、佛教靈認論、起信論講義、其他自宗他宗に通じて佛教に關する書數多あり。

師の學識と徳譽は天下既に定評あり、敢て贅せず。

### 宇山文應師

阿波の名刹四國八十八ヶ所の一たる熊谷寺を本據として、徳島縣四百餘箇寺の信賴を一身に繋ぎ、二回まで聯合法務所第三部長に重任し、一宗の爲めは固より郷縣各寺門の爲め、自己を犠牲に供して、熱誠事に當り、忠實職に盡し、孜々倦まず、切々として怠らず、中正穩健能く衆務を整備し、以て秩序的漸進的發展を期しつゝあり、一宗として亦以て肝要欠くべからざるの器なりとす。

### 上田義等師

臺灣臺南五帝廟街に眞言宗布教所を開設して、盛に密教の法鼓を鳴らしつゝあるものを古義高野派の上田義等師と爲す、師は勇邁果敢百折不屈の生氣を有し、熱國の瘴氣と戦ひて更に屈する所なく、一意専念法教の爲めに身を犠牲に供して、健闘しつゝあり、左れば内地人は固より臺人に至るまで、師の熱誠に化せられ、上下の尊信頗る大なるものありて、追日發展の域に向ひつゝあり。

### 久志卓動師

安政三年越前福井市に生まる、初め藩立僧學校に入り、後ち中學校に轉じ、神佛合立の大教院英學句讀師と爲り、再び福井縣師範學校を卒り、巡回訓導と爲り、教育大會官選議員を命ぜられ、終りに智山大學林に入りて佛學を專習し、仁峨兩山共立の廣澤教院に轉じ、越前丹生郡愛染院に住し、二回一宗大會議員に撰ばれ、後福井市川上持寶院に移り、明治二十五年北海道常在布教師に任じ、爾來今日に至るまで北地に在り、盛に法幢を翻し、旭川に眞久寺を創立して、其開山と爲り、現に之れに住せり、眞久寺は同道北地に於ける唯一最初の寺院にして、各宗に先ちて開創せし所なり、明治三十八年より現時に至るまで十年間、北都佛教團幹事と爲り、又智山派北海道支所管理たり、師の北海に在るや既に二十五星霜、初め人跡未だ至らざる不毛の地に入りて、盛に拓殖移民の獎勵を爲し、新開地に於ける頼る所なき殖民を慰撫して、能く其塔に安ぜしめ、幾多の辛酸を嘗めて遂に一寺を新設し、今や大に其寺基を固め、有數の巨刹たるに至らしめ、新殖民は上下の別なく、師を尊賴して集來するの盛況を呈し、法雨遠く賑僻の異域に霑ふに至る、其の功績の大なる固より内地に於ける寺門興隆の比にあらず、其の堅忍不拔と熱誠とは永く以て宗史に記し、北海史に録するに足る。

### 山口定道師

武州北埼玉の不動岡に在り、十年一日の如く、寺門の興隆に盡瘁し、同總願寺の不動尊は世にも稀なる靈佛にして往古一時は成田山を壓倒せしの盛況に在りしが、其後隆替變遷常なかりしを、師は大に發憤して舊時の盛大を回復し、猶今後の發展を一層大ならしめんことを期し、苦辛慘憺、先づ境内を時代的の設備に改造せんと企て、更に十數町歩の擴張を行ひ、菖蒲園、藤園、牡丹園等を設け、純然たる一大公園組織と爲し、着々其功を進め、近時漸く大成せり、師の熱誠と徳望とは次第に上下を動かし、現時に於ては東京にも有力なる信者多く、講社の如きも既に千を以て數ふべく、頗る眞面目にして、一時遊典的の信徒と異なるものあり、中央新聞社の尤も尊信せらるゝ、神佛の投票に最高點を占め、其記念標を寄せられたるが如き、以て靈佛の威徳と師の熱誠の一斑を窺ふに足るべく、遠からずして將に成田山と相拮抗するに至るべしと云へり、亦以て偉なりとすべきなり。

### 山城忍空師

師は戒律堅固の律僧なり、其の持律の上に就ては、極めて偏狹とも稱すべき程頑堅なり、然れども他の律僧とは、全然其趣を異にし、時代的新智識の吸收には、日も猶足らざるの慨を以て、寸時も油斷なく研鑽の勞を積み、苟くも新刊の書の如きは、細大洩さず、一々購讀せざるはなし、亦以て一異材と稱すべきなり。

### 丸山貫長師

大和室生山の前住にして、現に大和大藏寺に在り、事相に精通し、又悉曇にも明らかにして、殊に彫刻は三百年來の名手と稱せられ、今回御大典に際しては、紀念の虚空藏尊像を彫刻しつゝありと云ふ、師は又一時優婆塞宗を唱導せられたることあり、現に管長候補者として推選せんとするの議あり、又以て師の人格を卜するに足らん。

### 丸尾盛諒師

壹岐能滿寺齋藤師の法資にして、弱冠の頃朝鮮全南木浦に航し、遂に一字を建立して、大師堂と稱し、爾來十數年盛に法鼓を轟かし、目下は朝鮮に於ける寺院としては、有數のものとなり、猶近時湖南線の開通に従ひ、同道羅州にも布教所を設け、大に發展しつ

あり、師は齡未だ四十に満たず、在鮮既に約二十年其活動頗る觀るべきものあり、將來大に囑望に價す。

### 武藤範秀師

故佐伯隆範師の門に在つて、成田の石川、川崎の佐伯兩貫主と法兄弟たり、久しく山城の海住山寺に在つて、師の病に侍し、孝養怠るなく、啣々たる其至誠人を感ぜしむるものあり、志賀照林師の引退するや、代つて高尾山に晋めり、茲に於てか智山の所謂三山即ち成田川崎高尾の三本山は、眞乎たる兄弟の法類と爲り、異體同心、三即一の骨肉たるに至れり、師は濃厚恭謙能く部下を愛し、一意寺門の興隆に勉め、大規模の客殿等を新築して高尾山の面目を一新し、登山者も亦月に進み日に多きを加ゆるに至れり。

### 藤江龍長師

北海道三石郡三石村、東寺派圓昌寺創立者にして、其初め不毛の地に入り、飢寒交々至るも更に屈することなく、一意専念佛教護法の大事を楯として、循々怠らず、爲めに上下の尊信を博し、遂に今日あるに至れり、由來新開地の布教は頗る困難にして、能く成

功するもの少なきは、何人も知る所なるが、師の堅忍不拔能く之を成就せしは、亦以て偉と爲すに足る。

### 古越興深師

長野縣北佐久郡岩村田町圓滿寺に往す、剛毅勇邁能く事を斷じ、堅忍にして能く難に堪ゆ、興學布教に力を盡すこと十年一日の如く、今や大に寺門の興隆を企て、幾多の名士有志と相謀つて、圓滿寺隆興會を組織し、盛に活動しつゝあり、寺觀の一變して、光彩北信の野に輝くも亦近きに在るべし。

### 小柴豊嶽師

智山派の雄將にして、亦一派の元老なり、頃日宗務長の選舉に敗れたりと雖も、千葉の一角に據つて嚴然たるは、恰も猛虎の嶋を負ふて嘯くに似たり、意志の強固にして權門勢家に屈せざること、師の如きは容易に見る能はず、眼中自己の利害なく、單に宗派を思ふのみ、爲めに或は稍偏狹に失せずやの評あるも、此れ師の長所にして、其の曾て宗務長たるや、能く一派の宗務を整理し、財政の基礎を定めたる等、一つとして宗派の

前途に對する誠忠より出てざるはなし。

師は教相に精通せるのみならず、事相典故に明らかに、一派の施政上缺くべからざる有用の一偉材たり、殊に護法の精神強く、能く其の部下を薰陶し、公共の業務に貢献すること多く、佛教家宗教家の態度としては、實に完全上乘なるものなりとす。

### 光野正行師

東都湯島靈雲寺を薰すること既に數十年、靈雲寺は高野派別格本山にして、淨嚴律師の開創する所、多くの末寺を有す、師が戒徳の堅固なるは、故雲照和上に一步を超へたりと稱せられ、足寺門を出でざるも、徳化は四方に行はれ、無爲にして本末相和し、檀信徒は只管尊崇の後れざらんことを争ふ、門下亦着實護法の偉器多く、我正法律の威嚴と神聖とは、將に師に依りて保持せられつゝあり、紅塵萬丈首都の中樞にあつて、名聞に拘せず、一意修觀に入る老和上の如きは、實に此れ二十世紀の一大清涼劑にして、俗界は固より宗教教育界の大防腐劑なりと云ふべきなり。

### 小林正盛師

師は今や東京護國寺と相匹敵する、豊山派無二の大山たる鷄足寺に晋めり、師は豊山派の革新的急進人物にして、故關大漢、前宗務長富田師丹生屋師等と、新佛教徒として一世を聳動せしめ、又加持世界の草創主幹として、椽大の筆を揮ひ、辯論又一代の雄にして、一派并に佛教界の爲めに貢献する所頗る多く、後ち豊山中學校長として、後進の誘掖に勉め、頗る令名ありたり、師は一派一方の旗頭にして、齡は未だ四十余なれば、將來の活動刮目して見るべく、頗る有望なる前途を有するものと云ふべし。

### 小島承範師

師は江州神照寺の住なり、曾て久しく宗務の財政を握り、思慮周到、執務緻密、其職責に熱誠忠實なること前後無比と稱せらる、爲めに大に一派財政の基礎を強固にすることを得たり、今や總本山智積院の執事として、一切の寺務を總監せり、師の在らん限りは財務に於て、庶務に於て、整然見るべく、一つも紛亂の恐あるなし、師は實に一派の爲め再び得難き肝要の人物なりとす。

### 小林榮運師

信州に在り、軍隊布教使として其名佛教界に振へり、識見高邁、雄辯滔々、風采高雅にして堂々、實に布教師たる好佳の典型と稱すべし、威化あり生氣ある布教家の少なき現時に於て師の如きは容易に難得の偉材と稱すべく、殊に其の護法の志篤く、修養に意を竭すが如きは、尤も感佩に價する所なりとす。

### 小峯融憲師

東京府下北多摩の一大重鎮なり、思慮周密、意志堅確、能く事に堪へ、敏腕斧手能く磐根錫節を斷ず、寺門の興隆、堂宇の再建等觀るべき事業多く、門下後進を誘導して、其針路を誤らしめず、護法弘教の具體的實蹟擧げて數ふべからず、實に近代教家の典型と稱すべきなり。

### 朝倉玉雅師

東京府下南多摩郡七生村朝倉珠太郎氏長男、弘化三年九月廿四日を以て生まる、安政二年四月同村高幡金剛寺木田賢雅和上の室に投じ、同四年八月十五日薙染す、爾來智山義範和上に報恩院流相承、又金剛宥性和上に再傳し、或は雲照和上に從ひて慈菴戒

を受け、曾て十二箇年の久しき智山に在て、佐々木義範和上を主師として研究怠らざりき、明治四年五月十五日金剛寺住職に任ぜられ、今日に至れり、師は溫雅篤實、學は事教二相を究め、豫て各宗の教意に通じ、維新後の智山に於ては唯一の學匠と稱すべく、又定徳高く、上下の尊信頗る篤くして、一派の最高元老たると同時に管長候補に擬せらるゝこと屢々なり、法資丸山覺雅師亦一派の重鎮として、頗る聲名あり、老師の後を受けて寺門の興隆に盡しつゝあり。

### 青鹿秀榮師

東京市牛込區南藏院に在り、現に集議の一人にして、管長の選被選兩權を有せり、資性溫厚篤實、熱誠人の稱する所たり、宗派の問題に關しても成るべく自ら進んで干與することなきも、苟くも一派の重大事に會する時は、堂々其の主張を争ひ、一步も譲る所なく、護法家として寺門の興隆に盡瘁し、能く後進を陶冶し、僧侶の本分に於て缺くる所なき圓滿の人格なりとす。

### 荒井興嚴師

準別格本山横濱市元町増徳院の貫主たる師は、十年一日の如く拮据精勵寺門の興隆に勉め、今や檀家の如きも千有余に及び若尾平沼等の富豪大家に尊信せられ、徳學一世に高く、護法の熱誠は十目の齊しく稱する所なり、殊に徒弟の教育には尤も力を用ひ、門下には現に文學士佐伯興人師を始め、幾多の秀才雲の如く集まれり、慈善事業、公共事業に力を惜まざり、能く之を扶導する等、實に近時稀なる碩徳と云ふべし。

### 旭純榮師

福島縣石城郡赤井岳に在り、又兼ねて千葉縣君津郡鹿野山をも管す、其法兄弟安中師の没するや茨城縣那珂郡港の華藏院をも、其手に收めたり、而して均しく法兄弟たる高津親義師は今や成田圖書館に在りて、一山に重きを爲せり、曾て宗務長たりしが、今や宗會議長たり、幕僚には一派の智囊と稱せらるゝ玉瀧師あり、辯舌一世に響ける五十嵐師あり、此れ共に師が宗務長たりし際、庶務教學の兩課長たりし傑物なり、斯くの如く師は其根據を堅固にし、其兵站を豊富にし、樞要の位置を占めて、一派の形勢を瞻望しつゝあるなり、左れど師は決して野心家にはあらず、又敢て政治家と稱すべしにもあらず、師は極めて平和的圓滿なる君子人にして、川崎大師の佐伯貫主と一對の

有徳なる元勳と稱すべし。

### 阿刀清雅師

愛媛縣新居郡神戸村石鐵山神前寺四國第六十四番の靈場に居を占め、盛に法雨を灑ぎつゝあり、護法宗家の爲めには如何なることをも辭せず、其の熱誠驚くべきものあり、寺門日に榮へ、内外の信賴頗る篤く、實に該地方の重鎮たり。

### 佐伯隆運師

神奈川縣武州橘樹郡大師河原平間寺の貫主、所謂川崎大師の現住なり、師は埼玉の産故佐伯隆範師の養嗣たり、福徳圓滿思無邪君子人にして、大師の末流に於ける無前的好運兒と云ふべく、寺門は期せずして日に盛に、月に榮へ、其境内公園の發展完成の如き、實に非常の大事業たるも、一朝にして其功を遂げ、又一派の輿望は一身に蒐まり、其平和的穩健の態度は、一派の宗治肝要缺くべからざる機關として、先きには山岳派平野派との衝突あるや、憂宗の士は、遂に師を擁して宗務長の椅子に據らしめ、爲めに無事圓滿の解決を告げたるが如きあり、又其道路教育等の公共事業に盡すの多きは云



ふまでもなく、一派の事業に對しても成田と相伴ふて、全力を盡しつゝあるは何人も明らかを知る所なりとす。

### 齋藤隆現師

師は京都上郡蓮台寺を本住とすれども、其多くは大師河原に在り、博學洽聞通ぜざるなく、識らざるなく、常に文章傳道に力を盡し、施本用の著作等舉げて數ふべからず、能く事相典故に通じ、川崎大師の顧問たる位置に在り、或は謂ふ佐伯貫主の跡を繼て、平間寺主たることあるべしと、温厚篤實にして上下の信頼篤し、守戒の法器としては、極めて適恰せりと謂ふべし。

### 佐々木眞誠師

新潟縣佐渡國金澤村中興長岡寺の現住なり、天賦温厚篤實にして、宗派寺門の爲めに熱誠を盡ぎ、一意其の興隆に盡し、地方の爲め、徒弟の爲め、拮据盡瘁至らざるなく、上下の尊信頗る篤く、寺門日に榮へ月に進み、地方の重鎮として聲望甚だ盛なり。

### 坂野清堂師

徳島市佐古町大教院に住す、潤達敢爲、自信教人信の本義を體得して、法教の爲め、宗門の爲めには身を水火の中に投ずるも、猶辭せざるの生氣あり、勇膽あり、以て近時輒く得べからざる努力的實行的教家と謂ふべし。

### 齋藤善應師

師は富山縣西礪波郡石動町の名利觀音寺の現住にして、安政元年同郡淺地の神家に生まる、學識深く、事教二相に通じ、且つ悉曇に明らかに、聲明に妙なり、現に權中僧正にして、十五年間地方の管理及學頭たり、部下の平和圓滑に意を用ひ、布教弘法怠らず、又風流歌道に通じ、徳聲一代に冠たり。

### 清瀧智龍師

識見一世に勝れ、文筆に長じ、論議能く紙筆に徹す、宗政に對し、教學上に就て、多年一日の如く、憂宗の熱血を揮ひ、鐵筆を呵して以て一宗を警醒せり、眞言密教界に於ける言論の魁首は實に六大新報にして、師は言論界に至大の威權を有する六大新報と相終始せり、其間接直接に宗派に貢獻し、又末徒を教誨誘掖せし功績は、蓋し舉げて數ふ

べからざるものあらん。

### 木村政覺師

名古屋の人、現に智山大學教頭なり、年齒若けれど、温厚篤實玉の如き好箇の人物にして、學識は深遠能く宗乘に精通し、品行方正純然たる律僧の傾あり、此點に於ては第二の宮崎僧正とも稱べし、師は久しく宗學の要位に立ち、教學の爲めに盡され、又現に盡しつゝある功績は、一派後進の永く記念して忘るゝ能はざる所なり。

### 宮本隆範師

信州の鬼才、曾て在野黨の棟領として、貴族派に對し、あらゆる辛辣の手腕を揮ひ、屢々上下を震撼せしめたる當年の闘將も、今や二回宗務長の職を重ね、一派の政權を其の掌中に收め、一方に巧みに貴族派を控御し、一方には在野派の囂々を制し、頗る圓滿老熟の域に達せり、而かも猶時々閃電的鬼腕を弄するなきにしもあらず、師の局に當りて以來、智山大學の設立、新式宗務所の建設等一派の面目を改めたるも、尠ならず、今や又宗勢を調査して、一派の根本方針を確立せんとすと云ふ、幸に努力する所あれ。

### 宮崎智全師

愛知縣の産にして、今や伊豫大山寺に在り、師は純然たる律僧にして、戒律を持するの堅固なる實に驚くべきものあり、現時に於ても所謂律僧の名は之を耳にすること乏しからざるも、其實は頗る疑ふべきもの多し、然るに師は此點に於ては、故雲照和上を凌ぐとも、決して譲らざるなり。師は亦一派の布教師として、説教に巧みに、其説く所は全然肺肝より出て、敢て奇言能辯を弄せざるも、感化の偉大なるは、到底普通演説屋の及ぶ所に非らず、實に智山唯一の人物なり。

### 宮崎慶淳師

宮崎慶淳即ち釋慶淳なり、師は目白僧園故雲照和上の帷幕に在りて、名を爲せり、曾て僧園の後繼者を以て目せられしが、今や豊山大學の學監たり。目白僧園は濟々たる多士を以て充たされしが、就中浦上師は人格と學識とに於て、全然一頭地を抜き、松田密信師は事業家として傑出し、宮崎師は世出世兩

様の才を兼備せしと稱せられたり、世評謬らず師の前途は洋々として春の海の如く有望なり、豊山大學長より豊山管長、目白僧園の復興者、第二の雲照和上等幾多の好題目は師を待ちつゝあるなり。

### 恩田政照師

名古屋の産、平幡照法、服部了欣師と共に肉兄弟にして、均く密門智山派の人なり、師は目下朝鮮釜山金剛寺に在り、師の釜山に在ること二十餘年、其海外新開地の開教に苦心慘憺たるの真相は、到底筆舌の盡し得べき所に非らず、然れども天は決して人を殺さず、師が二十餘年の苦心は、遂に上下の信頼を蒐め、挾間中西池田等の如き釜山唯一の大富豪は悉く其檀徒と爲り、一萬餘金を投じて、本堂を改築し、大廳山頭の一大偉觀を呈するに至れり、亦以て偉なりと稱すべし、殊に師は獨り釜山に止まらず、大邱にも遍照院を創設して、目下其經營に盡しつゝあり、其功勞以て一派の範と爲すに足る。

### 釋興然師

師は鳥根縣鹽谷の人、嘉永二年を以て生まる、十歳同縣横田岩谷寺仙明和尚に隨ひて

得度す、其の翌年和尙没す、由つて和尚の肉弟雲照師に従ふ、明治十九年九月渡天し、ヌマンガラ大僧正に就て、研鑽大に得る所あり、之れ日本僧侶入竺の始めなり、二十六年九月歸國す、後ち徒弟戸谷仁度、向山亮雲、吉松戒祐、藤田榮禿(印度にて死す)、恭戒(印度にて死す)の五人を渡天せしめ、又眞言宗僧侶にして渡天せしは池田照誓、阿刀宥恕、比留間、長谷部隆諦、佐藤光峯師等にして、皆師の芳躅を繼ぎしものなり、釋宗演河口慧海師等も渡天中は大に師の爲めに便宜を得たり、師は今や神奈川縣城郷の三會寺に在り、恬淡たる生活の下に高風一世を壓し居れり、錫崙の一切經、暹羅より持歸れる百三十體の佛像等は、實に天下の珍品なり、毎月十三日は目白に參向して故和上の靈を吊ひ身には疊三枚大の袈裟様の布を纏ひ、其風采より、一舉一動悉く既に俗を離れ、一度此に接するの時は、心身頓に落脱の想あらしむ、寺は檀家百餘、末寺三十三箇等あり、舊四月十五日を授戒日と定め、信徒には前外相故林伯の如き知名の士多し、又釋尊正風會を設け盛に正法の宣傳に勉めつゝあり、現時亦得難き高僧と云ふべきなり。

### 釋法傳師

師は今回新たに聯合法務所第二部長に選任せり、師の雷名は疾くより布教界に於て

も論壇界に於ても、風靡せざる所なく、活殺自在の辯論と手腕とを兼ね、識見あり、膽氣あり、而かも性格純潔、上下共に多大の信頼を寄せ、其前途は頗る光明の赫々たるものあり、宗派の將來亦以て大に囑望すべきなり。

### 志賀照林師

壹岐能満寺の出、幼より才氣喚發、壯に及んで頗る識見に富む、或は本山に事務を執り、或は千葉縣銚子圓福寺に住して、其興隆を圖り、事業上の手腕を發揮すること一再にして止まらず、後ち故佐伯僧正の後を受けて、智山派の三山と稱する高尾山薬王院の住職となり、寺宇殿舎の改築あり、坂路の擴張、及基本財産として植林の經營、山内十八箇所の開設、又櫻樹を栽培して高尾名物の紅葉と相對せしめ、以て春秋二期に於ける満山の盛装を整へ、其間多くの講社を結成して、信徒を増殖し、遂に以て成田川崎に追隨して三山の一たるに耻づるなきに至らしめたり、然り而して師の本領は一に茲に止まらず、屢々宗政を握り、前宗務長として、或は管長代理として、糾紛せる宗務を裁斷し、特に貴族派と在野派との軋轢甚しき際に當りては毎に兩者の仲間に介在して一派の平和を圖り、其効猷頗る大なるものあり、且つ能く後進を誘掖し、又大に海外布

教に意を注ぎ、朝鮮釜山金剛寺の如きは、最初師の開創に係り、又法孫九尾盛諒師は現に全南木浦に法を建て盛に發展しつつあり。

師今や老を告げて、高尾山麓清瀧庵に閑居し、悠々自適の境界に在り、敢て自ら宗政にも寺務にも容喙せざれども、嚴然として一派の元老、高尾の大御前たるは十目の齊しく認むる所なりとす。

### 庄野琳眞師

四國靈場第十九番の札所立江寺の山主にして、寺は有名なる靈驗地藏尊ありて、頗る奇蹟に富める巨刹舊寺なり、師は資性濶達小事に齷齪せず、一意布教護法に盡し、寺門の繁榮は日に進み、能く後進友僚の爲めに指導扶掖の任に當り、該地方に於ける一大重鎮として尊重せらる。

### 清水祐暢師

埼玉縣北葛飾郡吉川の密嚴院に籠居して、該地方に於ける、無冠の帝王たり、正義を論じて、苟くも托ぐる事なく、豊山當局に取りては常に宛然たる一敵國の傾あり、能く都

下の各寺院を興隆し、後進を誘掖して之を進め、人其用を爲すを樂む、始終布教を獎勵し、門末をして徒弟の教養に力を盡さしめ、又大に公共事業に注意して、貢獻する所少なからず、時代的の宗教家として、頗る大なるものありとす。

### 志摩龍泉師

徳島縣板野郡松島村瑞運寺の山主なり、同寺は四國第六番の靈場にして、藥師如來の有縁の地なれば、賽者日に絶へず、師は能く上下に接して、温厚篤實、護法弘教の熱誠は何人も信頼敬仰措く能はざる所なり、されば寺門日に榮へ、感化月に進みけり。

### 廣瀬賢信師

師は舊會津藩士山中國次氏長男にして、嘉永五年八月十五日を以て生まる、現に東京府下田端興樂寺住職にして、豊山派集議權中僧正なり。師は初め文久二年六月興樂寺第二十六世僧正野木意信師の室に入りて得度し、爾來日夜拮据盤雪の苦を嘗め、學徳日に進み、明治十九年十月遂に拔擢せられて、興樂寺第二十七世の法幢を繼ぐに至れり、師が明治十年以來今日に至るまで、或は豊山の宗務

上に於て、或は其教學上に於て、幾多の要職に就きて、一派の興隆教學に盡瘁せられたるの芳躅は、實に枚擧に遑あらず、殊に徒弟四十餘の法器を薰育して、後進を扶掖せられたり、猶師は總本山長谷寺再建局長に任ぜらるゝや、寤寐も之を以て念となし、其の大成を期せらるゝと云ふ、以て寺門興隆に熱誠なる一班を窺ふに、足らん、師の如きは學徳兼備し、手腕あり、護法の念篤く、教育家としては實に完璧と稱すべきなり。

### 平之亮禪師

醍醐山の總家老として、山務を握ること幾十年、其鬼手辣腕は能く惠印部の荒法師を縦横に操縦して、修驗道の法光日に盛に月に進み、醍醐三寶の教風再び教界を壓するの概あらしむ、實に壯なりと云ふべし、京童は毎に謳ふて曰く、醍醐の平之か、平之の醍醐かと、以て師の權威を測るに足らん、師は一方に豪放磊落たると同時に、一方には細心周密にして、群雄駕御の政治的外交の大手腕を有すると同時に、又經濟的財政的敏腕を有し、一山の基礎を確立し、庶務を整理して、以て今日の盛況を呈せしむるに至りしは、頗る大なるものにして、其功績と偉材とは永く臆念すべきものなりとす。

### 正田運猷師

奥州白石の人、壯にして刈田中學校を興し、又東京青山に共齋場を設け、遂に進んで智山派の庶務課長となり、佐伯宗務長の下に、殆んど一派の全權を握り、或は海外に漫遊し、今や別格本山たる山形龜岡の大聖寺に潜みて、數萬圓を投じて、殿堂の改築に従事しつゝあり、師は平和の裡に覇氣を藏める優しき事業家と云ふべきなり。

### 廣瀬義照師

群馬縣多野郡神流村觀音寺現住にして、宗務支所の管理に任じ、地方の教學布教に盡瘁せらるゝこと多年一日の如く、護法の念篤く、寺門の興隆に意を用ひ、上下の尊信篤く、近代亦容易に得難き好教家たり。

### 森田龍僊師

著者が明治三十年の頃高野山に在るや、師の講筵に列して菩提心論二教論の講義を聽けり、當時師は未だ弱年なりしが、其識見豊富頗る傾聽に價すべきものあり、予密に思らく、後日必ず大器たらんと、今や宗乘に於ては獨歩の位地を占め、大學教壇上唯一の學匠として尊重せらる、宗乘に於ては將に密門座主の後繼たるべき尤も有望の學

匠たりとす。

### 關澄道師

東京府下平井燈明寺通稱平井の聖天の住職なり、今や一派の會計課長として現に其職に在り、識見と事務の才とを兼備して、思慮周密にして事を苟くもせず、豊山派の現狀に於ては、一日も缺くべからざる有用の偉材たり、又其寺門を興隆して、平井聖天の聲名を遠近に轟かすに至りしが如き、以て如何に師の手腕の勝れたるかをとするに足らん。

### 關本秀明師

千葉縣千葉郡幕張町寶幢院主にして、資性平和的温厚の君子人なり、護法の念厚く、寺門の興隆より徒弟の教養に意を注ぎ、常に一宗の平和を希ひ、友僚に接する極めて懇切にして、又平素新智識の吸収を怠らず、檀信徒の歸依頗る篤く、隠然該地方に重きを爲し、近代的有數の宗教家なりとす。

### 鈴木洞運師

大正僧寶

千葉縣安房の人、慶應三年を以て生まる、現に埼玉縣北足郡鳩ヶ谷町地藏院に任せり、師は智山第十七世にして、學徳共に曠世の偉人たる運徹能化の正系にして、其世統は左の如し、智山第十七世通徹……房州寶珠院廿六世運盛……運澄……運仙……運道……運河……運日……房州那古寺松下運位……鈴木洞運師は十二歳にして房州清澄寺に入り、松下運位師に就て得度し、爾來故雲照和上、高志大了吉堀慈恭師、上野相憲僧正、巖三學院宥性阿闍梨寺に就て、深く戒律事相の玄底を極め、又大學林を卒業事、致共に秀て、寺門の興隆と部内の布教に専心努力し、其成績頗る見るべきものあり。

因に師は故運徹能化の遺物たる菩提樹の珠數等を護持し居れり、其床上には伯如老人運徹能化の親筆になる、敬、眞俗二諦不外之の軸を掛け、以て自警と爲しつゝあり。

## 大正僧寶高名錄

左に擧名せる諸師は孰れも、當時名聲隆々として、或は高德者あり、或は學者あり、或は手腕家あり、或は篤志護法家あり、或は此等を兼備せるものあり、前章の如く各別に評

傳すべきものなれども、其資料未だ充分ならざる上、編者の曾て磐石に接せざるものあれば、漫録或は其の眞相を誤らんことを恐れ、茲には單に其の芳名を録して、以て、微志の在る所を傳ふ。

更に又各學士即ち融師、佐伯師、大槻師、大谷師、吉田師、其の他に至つては、其の人格及平生を知悉せるの餘り、却つて公正を缺ぐあらんことを恐ると同時に、諸師は既に己に天下に定評あれば、各派學士一覽表に包括して、以て其の評傳を略すと爾云ふ。

## 古義

金山法龍師○淺田經洞師○和田性海師○田村快賢師○融等呼師○金丸宥徳師○伊東心教師○丹生實榮師○鼓義算師○高藤秀本師○松橋祐善師○佐伯好智師○渡邊寛玉師○増田大宥師○栗林龍照師○青木慶圓師○小川義呼師○長岡覺乘師○瀬川大憲師○上田覺城師○長谷川弘道師○摩尼寶洲師○岡田教傳師○岡崎密乘師○椋本龍海師○加藤智道師○小川光義師○倉田明應師○高岡隆心師○加藤諦見師○松橋慈照師○西川忍龍師○重松寛勝師○坎宥智師○玉野諦住師○藤村密幢師○佐伯宥純師○橋本琢雅師○橋本清雅師○日下義秀師○法性宥鏝師○長谷川覺明師○佐

伯行輝師○真井覺深師○尾池泰純師○廣瀨瑞應師○鈴木英良師○松田密信師○松  
下啓念師○田中嚴道師○佐々木尊龍師○大島惠昌師○佐伯好智師○加藤宥信師○  
池上宣海師○宮崎惠真師○藤村密雄師○淺野觀澄師○西川良清師○石塚本龍師○  
三室戸光遍師○金子密禪師○松永昇道師○杉本孝順師○桑原真瑞師○山本真苗師  
○藤村叙運師○和田達源師○花樹峻峯師○佐伯覺燈師○東榮基師○釋大真師○鹽  
崎琢修師○長谷最禪師○靜感應師○楠秀傳師○佐伯宥純師○福田快月師○大江慶  
尊師○三澤猛隆師○曾山龍城師○木村觀空師○荒川真盈師○嵩隆辨師○長原密淨師  
○伊達義禪師○柴田智秀師○荒井真盈師○高田義本師○井上密禪師○村田密禪師  
○秋津真雄師○鈴木宏道師○陽崎弘雄師○櫻井良好師○藤田法眼師○玉島實雄師  
○釋大空師○石田清巖師○佐伯覺良師○松本文雄師○龍田宥量師○鈴木英珠師○  
鈴木智辯師○神龜俊璋師○高田良源師○加藤宥位師○矢田快義師○龍華智隆師○  
西真道師○和田勝賢師○高田良源師○龍臥英賢師○宮地龍雄師○高見寬應師○竹  
內探玄師○安永龍瑛師○武內清雅師○神山諦真師○泉光明師○秋田真鑑師○龜山  
圓海師○佐伯覺良師○板東覺心師○童銅龍純師○龍田宥量師○西宮觀瑞師○原辨  
應師○小簀良順師○中村厚學師○岡本祐基師○森田慈航師○鏝谷禮剛師

### 豐山派

大久保宥山師○保森覺圓師○相島俊瑜師○佐々木教純師○湯澤龍岳師○岡田契意  
師○古田真道師○杉田文量師○淺田弘起師○森慈海師○早川快亮師○高間一明師  
○荒木良仙師○田中海應師○塚本賢曉師○中川大俊師○本多榮亮師○山口永隆師  
○宮本量慶師○大江秀尊師○鈴木義峯師○小田淨明師○渡邊最明師○小野方良行  
師○加藤杲惠師○田中勝道師○高密照禪師○網代智明師○神林隆淨遊○內川秀應  
師○中村林盛師○渡邊隆善師○小寺正因師○岡本智禪師○白井亮通師○本多隆基  
師○福山宥清師○中野融嚴師○高木信光師○高梨宥相師○伊藤憲興師○佐藤快傳  
師○池田英雄師○堀内宥盛師○市橋覺俊師○中村勝任師○尾上玄盛師○星野宥弘  
師○齋藤了溪師○瀨在尊識師

### 智山派

大谷詠隆師○玉川光倫師○松園明敬師○松本盛恒師○鈴木快秀師○橫井良琪師○  
瀧承天師○鈴木俊龍師○船岡芳仁師○船岡芳信師○榮畑弘寬師○岡部快信師○吉  
田真榮師○芳野光真師○田宮隆寬師○渡邊祐傳師○平澤照尊師○芳野光真師○松



野秀海師○小林範田師○小林梵龍師○井上鐵傳師○松本英順師○堀内隆詮師○稻垣心鏡師○高野興禪師○楠體本師○福田善充師○竹村智蓮師○角田賴惠師○青木宥恕師○青木豐榮師○寶居弘敬師○松本宥觀師○村山祐善師○青麻永昌師○愛甲宥敬師○上杉堯智師○倉田光運師○渡邊惠秀師○平幡照法師○林堯雅師○川名宥允師○神戸宥實師○岩田照守師○高井觀海師○石澤興榮師○明星良導師○橘茂貴師○田中教仁師○橘廣澄師○佐瀬榮輝師○鷺尾照堯師○澤村慈光師○高野能承師○朝生聖丹師○東山深明師○御嶽隆道師○三神快遍師○金剛照諧師○加美谷智觀師○榊原了月師○高橋隆中師○文屋晋阿師○肥田隆壽師○川名宥充師○丸山覺雅師○丹野順榮師○高井觀海師○林田光禪師○松平實亮師○田邊榮隆師○佐藤待隆師○佐藤宗運師○鈴木俊龍師○村山祐意師○齋藤護道師○大護戒融師○村手秀盛師○村磯傳之師○内山正如師

各派の公職員

管長

古義真言宗高野派管長 密門宥範師  
 同 御室派管長 土宜法龍師  
 同 東寺派管長 鎌田觀應師  
 同 泉湧寺派管長 泉智等師  
 同 山階派管長 長宥匡師  
 同 醍醐派管長 多田實圓師  
 同 大覺寺派管長 龍池密雄師  
 同 小野派管長 箸藤善龍師  
 新義真言宗 智山派管長 伊藤宗盛師  
 同 豐山派管長代理 尾川昭圓師  
 真言宗律派管長 福垣真應師

宗務所員

真言宗各宗派聯合法務總裁 密門宥範師  
 同 第一部長 蓮生觀善師  
 大正僧寶

同 第二部長  
 同 第三部長  
 同 第四部長  
 新義真言宗豊山派宗務長  
 同 庶務課長  
 同 會計課長  
 新義真言宗智山派宗務長  
 同 會計課長  
 同 庶務課長  
 同 教學課長

本山役員

高野山金剛峯寺執事 佐伯宥純師。西川忍龍師。湯崎弘雄師。鈴木英良師  
 御室仁和寺執綱 瀬川大憲師。執事 鈴木宏道師  
 泉涌寺執事 椋本龍海師

釋法傳師  
 宇山文應師  
 津田實英師  
 尾川昭圓師  
 佐々木教純師  
 關證道師  
 宮本隆範師  
 宮本隆範師  
 角田頼惠師  
 竹村智連師

勸修寺執事 櫻井良好師  
 大覺寺事務長 眞井覺深師  
 醍醐山總務 平之亮禪師  
 隨心院執事 玉島實雄師  
 智積院執事 小島承範師  
 長谷寺執事 田中勝道師。高密照禪師。事務長 網代智明師  
 西大寺執事

教職員

古義 大學長は關係管長の兼攝なり。  
 古義には、聯合の京都大學と高野大學と二校あり。  
 其の重なる教授は  
 石堂惠猛師。長谷寶秀師。森田龍僊師。融道玄師。金山法龍師。長谷部隆諦師。其他十餘名

大正僧寶

古義 中學校長は聯合京都中學。岡本慈航師

高野中學校は部長兼攝なり。

教授は専門普通の兩方あり。

大學教授の兼任者多し。

(詳細は略之)

新義豊山大學長 權田雷斧師。學監 宮崎慶淳師。教授 田中海應師。塚本賢曉師

同 豊山中學校長 文學士吉田堯昇師 教頭 文學士宮崎榮雅師

新義智山大學院長 宮本隆範師。學監 文學士大槻快導師。舎監 文學士大谷日

齊師

教授 木村政覺師。木村政快師。高井觀海師。林田光輝師。松平實亮師。小谷

榮導師

顧問 石川照動師。佐伯隆運師。柳文學博士

### 布教師

眞言宗各宗派聯合布教使會長 大師教會本部長 和田大圓師

布教使

龜山圓海師。森寬隆師。和田性海師。刑部榮學師。檜崎宜弘師。宇喜多智洞

師。名越宥全師。村山隆性師。乃村龍澄師。宮崎法源師。龜山有信師。久保

田律殿師。角田定海師。高田寶戒師。服部覺道師。高橋慈本師。赤松密道師

師。三好祥運師。蓮部龍英師。天城諦乘師。大岡忍榮師。中島眞鏡師。安念

龍圭師。民間賢海師。勝野秀禪師。布哇開教師。關榮覺師。朝鮮開教師。澤

光範師。金武順道師。英隆善師。筑紫宥勝師。

豊山派布教師 金田賢道師。佐藤光峯師

智山派布教師 宮崎智全師。小林榮運師。五十嵐光龍師。渡邊祐傳師。平澤照尊

師。朝生聖圓師

### 宗會議員

高野派特選議員 法性宥鏡師。加藤諦見師。高岡隆心師。重松寬勝師。藤村密幢師

御室派特選議員 長谷殿禪師。花樹峻峯師。瀨川大憲師  
醍醐派特選議員 平之亮禪師  
東寺派特選議員 松永昇道師  
山階派特選議員 藤田法昭師  
泉涌派特選議員 椋本龍海師  
小野派特選議員 玉島實雄師  
各教區選出議員 鈴木英珠師 龍華智隆師。佐伯興人師。矢田快義師。神龜俊璋師。小川義呼師。西真道師。和田勝賢師。融等呼師。龍臥英賢師。和田性海師。高田良源師。高藤秀本師。鼓義算師。松本文雄師。庄野琳真師。宮地龍雄師。曾我部俊雄師。高見寬應師。竹內探玄師。釋大空師。岡本慈航師。佐伯惠眼師。安永龍瑛師。武內清雅師。神山諦真師。泉秀明師。秋田真鎧師。龜山圓海師。佐伯覺良師。板東覺心師。池上宜海師。童銅龍純師。龍田有量師。和田大圓師。西宮觀瑞師。加藤宥信師。原辨應師。木村觀空師。小簀良順師。岡本祐基師。中村厚學師。橋本清雅師。森田慈航師。鏝谷禮剛師。  
議長 和田大圓師。副議長 岡本慈航師

豫算委員 鈴木英珠師。神龜俊璋師。花樹峻峯師。龍田有量師。松本文雄師。曾我部俊雄師。釋大空師。佐伯覺良師。藤村密幢師。谷内清巖師。瀨川大憲師。決算委員 長谷最禪師。高藤秀本師。小川義呼師。椋本龍海師。高田良源師。請願委員 融等呼師。和田性海師。加藤宥信師。佐伯惠眼師。真井覺深師。豐山派宗會議員 大久保宥山師。内川秀應師。本多隆基師。中村林盛師。白井亮通師。福山宥清師。渡邊隆善師。岡本智禪師。小寺正因師。中村勝任師。市橋覺俊師。池田英雅師。堀内宥盛師。伊藤憲興師。佐藤快傳師。高架宥相師。高木信光師。直樹大本師。泉最善師。中野融嚴師。  
議長 泉最善師。副議長 直樹大本師  
智山派宗會議員。石川照勤師。朝念玉雅師。佐伯隆運師。青木榮豐師。小林榮運師。小柴豐嶽師。武藤範秀師。鈴木快秀師。尾住秀憲師。松本盛恒師。鈴木俊龍師。五十嵐光龍師。田邊榮隆師。玉瀧義秀師。福山本覺師。福本義觀師。川名宥我師。小峯融憲師。山口定道師。佐藤待隆師。佐藤宗運師。平幡照法師。高野教雅師。平澤照尊師。村山祐善師。塚田隆榮師。疋田運猷師。旭純榮師。議長 旭純榮師。副議長 五十嵐光龍師。小會議長 石川照勤師。副議長 佐伯

隆運師。會計検査員 石川照勤師。佐伯隆運師。尾住秀憲師。

集議……管長推選權者并に候補者

豊山派 田中照心師。淺田弘純師。森慈海師。尾川昭圓師。早川快亮師。永見快賢師。廣瀬賢信師。高間一明師。青麻秀榮師

智山派 石川照勤師。朝倉玉雅師。佐伯隆運師。宮本隆範師。大江存良師。青本榮豊師。三神快遍師。加美谷智觀師。金剛照譜師。小林榮運師。

以上十名管長候補者

智山派菩提院結衆。小柴豊嶽師。武藤範秀師。鈴木快秀師。文屋晋阿師。青木宥如師。齋藤隆現師。瀧承天師。船岡芳信師。田中敏道師。角田頼惠師。宮崎智全師。高橋隆中師。肥田隆壽師。横井良琪師。池田照誓師。丸山覺雅師。千葉賢永師。川名有充師。木村政覺師。

智山派宗機顧問。石川照勤師。佐伯隆運師。小柴豊嶽師。武藤範秀師。文屋晋阿師。師

智山派教育會長 石川照勤師

智山派教學財團理事長 宮本隆範師  
豊山派總本山再建局 局長 加藤精神師。理事 荒木良仙師。保森覺圓師。大久保宥山師。相島俊瑜師。岡田契意師。古田眞道師。杉田文量師。  
前再建局長現顧問廣瀬賢信師

地方管理

古義各派聯合部

聯合法務所京都出張所主任 瀨川大憲師  
聯合法務所東京出張所主任 大徳院 松橋祐善師  
東京市本所區元町

各地法務支所及學頭及管理(以前のもの)

北海道後志國岩内郡岩内町 本弘寺 肥田盛道師  
東京市本郷區湯島新花町 靈雲寺 光野正行師  
東京市淺草區永住町 密藏院 松田密信師  
横濱市元町一丁目 増徳院 荒井興嚴師

神奈川縣足柄下郡豐川村  
 同縣津久郡日連村  
 同縣高座郡藤澤町  
 同縣橋樹郡城郷村  
 埼玉縣大里郡妻沼村  
 靜岡縣駿東郡清水村  
 同縣濱名郡曳馬村  
 同縣加茂郡三濱村  
 愛知縣寶飯郡西浦村  
 同縣愛知郡廣路村  
 三重縣河藝郡白子町  
 津市大門町  
 群馬縣群馬郡澗川村  
 同縣新田郡生品村  
 山梨縣中巨摩郡三惠村

勝福寺 川崎慈運師  
 青蓮寺 山崎秀辨師  
 威應院 眞柴憲典師  
 三會寺 釋興然師  
 歡喜院 鈴木英良師  
 蓮華寺 牡多惠學師  
 帝樂寺 山本頼幢師  
 善福寺 秋山正嚴師  
 無量寺 林英泉師  
 興正寺 宮崎良俊師  
 觀音寺 淺野觀澄師  
 大寶院 藤村密應師  
 慈眼寺 西川良清師  
 照明寺 石塚本龍師  
 法善寺 田中米仙師

長野縣北安曇郡陸郷村  
 岐阜縣武儀郡下有知村  
 滋賀縣栗田郡治田村  
 新潟縣中蒲原郡巢本村  
 富山縣西礪波郡石動町  
 石川縣鳳至郡野村  
 金澤市野田寺町  
 福井縣遠敷郡國富村  
 福井市東下町  
 京都市下京區松原麩屋町  
 京郡府熊野郡海部村  
 同府加佐郡川東村南山  
 同府南桑田郡本梅村加舍  
 大阪府南區三津寺町  
 大阪府泉北郡八田庄村

泉福寺 法性宥鏗師  
 神光寺 今宮本瑞師  
 安養寺 泉秀明師  
 淳心寺 法輪宥淳師  
 觀音寺 齋藤善應師  
 金藏寺 密守榮源師  
 寶集寺 木尾戒圓師  
 羽賀寺 佐伯龍僊師  
 高野派出張所  
 明王院 高崎宥猛師  
 寶殊寺 目下義雄師  
 金剛院 室寺實高師  
 延福寺 日折龍愿師  
 大福院 花樹峻峯師  
 中室院 北村快融師

大正僧叢

全

同府同郡北池田村  
 同府南河内郡川上村  
 奈良縣生駒郡平群村  
 同縣宇智郡野原村  
 同縣磯城郡安倍村  
 和歌山縣海草郡紀三井寺村  
 同縣西牟婁郡稻成村  
 同縣伊都郡九度山村  
 和歌山市鈴丸町  
 兵庫縣川邊郡伊丹町  
 同縣武庫郡瓦木村高木  
 同縣同郡須磨村西須磨  
 同縣氷上郡和田村  
 同縣美方郡熊次村外野  
 同縣城崎郡香住村一日市

明王院 森 惠 晃師  
 延命寺 上田 覺 城師  
 成福寺 鈴木 惠 照師  
 金剛寺 大森 慧 海師  
 文殊院 植田 順 應師  
 護國院 木村 觀 空師  
 高山寺 曾我部 俊 雄師  
 遍照寺 深 覺 尊師  
 萬精院 和田 勝 賢師  
 金剛院 東 智 禪師  
 法心寺 高田 義 本師  
 福祥寺 長原 密 淨師  
 延命寺 桂 義 山師  
 日隆寺 川會 賢 海師  
 帝釋寺 松井 心 海師

同縣朝來郡梁瀬村  
 同縣加東郡社町  
 同縣神崎郡福崎村  
 同縣津名郡安平村  
 鳥取縣氣高郡大和村  
 島根縣八束郡本庄村  
 同縣安濃郡大田町  
 同縣邇摩郡井田村  
 同縣知夫郡黒木村  
 岡山縣苫田郡郷村  
 同縣吉備郡服部村南溝平  
 同縣淺口郡河内村  
 同縣小田郡北川村  
 同縣同郡山田村奥山田  
 同縣上房郡有漢村

樂音寺 向井 義 觀師  
 持寶院 田村 快 賢師  
 作門寺 寺河 宏 俊師  
 蓮華寺 谷内 清 巖師  
 長谷寺 岡田 教 傳師  
 大通寺 長瀬 學 燈師  
 圓應寺 高木 泰 範師  
 高野寺 玉木 實 嚴師  
 長福寺 大野 明 濱師  
 福泉寺 岩原 滯 勢師  
 桂林坊 秦 義 雄師  
 遍照院 長谷 最 禪師  
 持寶院 丸山 祥 幢師  
 觀蓮寺 東 快 存師  
 寶妙寺 竹中 智 幢師

岡山市磨屋町  
尾道市久保町  
廣島市新川場町  
同市木挽町  
廣島縣深安郡福山町  
同縣御調郡貢村木原  
同縣比婆郡比和村  
同縣沼隈郡草戸村  
同縣世羅郡甲山町  
同縣佐伯郡二十日市町  
山口縣玖珂郡柳井町  
同縣吉敷郡秋穂村  
德島市寺町  
高松市二番町九番地  
香川縣小豆郡二生村二面

藥師院 松原光江師  
西國寺 佐伯惠眼師  
延命院 龜尾忍光師  
西福院 宮城惠明師  
龍華院 長宥匡師  
觀音寺 神田德雄師  
城福寺 林哲深師  
明王院 龍池密雄師  
福智院 脇惠心師  
正覺院 佐和隆惠師  
金剛寺 山本成道師  
福樂寺 原田亮巖師  
善福寺 木村眞雅師  
誓願寺 加藤智道師  
中光觀師

愛媛縣宇摩郡松柏村  
同縣周桑郡楠河村  
同縣喜多郡久米村  
高知市中島町  
大分縣大野郡西大野村  
同縣北海部郡下浦村堅浦  
宮崎縣東臼杵郡門川村  
福岡市博多  
久留米市寺町  
福岡縣糸島郡雷山村  
同縣京都郡豐津村  
佐賀縣佐賀郡川上村  
同縣杵島郡錦江村  
同縣同郡住吉村  
長崎市筑後町

善法寺 鈴木蓮海師  
道安寺 三井覺典師  
圓滿寺 岡田諦雅師  
高野寺 龜田寬道師  
神角寺 衛藤寬猛師  
海岸寺 瀧本秀榮師  
永願寺 黒木宥照師  
東長寺 摩尼寶洲師  
醫王寺 井上岡寬師  
興福寺 大西孝嚴師  
國分寺 宮本孝梁師  
明王院 深川良勇師  
觀音院 稻佐觀明師  
悉地院 山崎宜晃師  
聖無動寺 服部賢遵師



長崎縣南松浦郡富江村  
熊本市坪井町  
熊本縣球磨郡人吉町  
鹿兒島市長田町  
沖繩縣那霸區若狹町

妙泉寺 稻生覺等師  
正福寺 合志法嚴師  
願成寺 曾我部快嚴師  
最大乘院 弘智榮師  
護國寺 久山石仙師

豐山派宗務支所及支所長

東京市本所區林町  
埼玉縣北葛飾郡吉川村  
同縣北足立郡浦和町  
千葉縣千葉郡千葉町  
同縣東葛飾郡小金町  
茨城縣真壁郡雨引村  
栃木縣安蘇郡佐野町  
長野縣更級郡信田村

德上院 關澄道師  
密嚴院 南部宥善師  
玉藏院 伊藤秀教師  
智光院 西倉亮瑩師  
大勝院 大野弘真師  
樂法寺 木越孝範師  
金成院 大西寬宥師  
專照寺 瀨在尊識師

群馬縣前橋市芳町  
新潟縣中頸城郡黒川村  
同縣佐渡郡畑野村  
福島縣安積郡郡山町  
山形縣東置賜郡小松町  
愛知縣名古屋市袋町  
滋賀縣犬上郡河瀬村  
奈良縣磯城郡初瀬町  
愛媛縣溫泉郡素鷲村  
高知縣土佐郡江ノ口村

東福寺 林鏡識師  
密藏院 佐藤快傳師  
慶宮寺 清田教順師  
如寶寺 今井乘賢師  
大光寺 長谷部隆仁師  
延命院 奥田惠澄師  
極樂寺 西島觀明師  
長谷寺 柏井快俊師  
大音寺 青野實行師  
安樂寺 田中勝道師

智山派宗務支所及管理

東京市芝區愛宕町  
東京府南多摩郡七生村  
京都市上京區千本頭

鏡照院 千葉賢永師  
金剛寺 武藤範秀師  
上品蓮臺寺 齋藤隆現師

同市拓原通烏丸東入  
 神奈川縣橋樹郡大師河原村  
 長崎縣北松浦郡平戸村  
 新潟縣南蒲原郡裏智村  
 同縣北真沼郡小千谷町  
 同縣佐渡郡小木町  
 同縣同郡金澤村  
 埼玉縣南埼玉郡大袋村  
 同縣北足立郡中丸村  
 同縣同郡蕨町  
 同縣北埼玉郡大桑村  
 同縣同郡不動岡村  
 同縣比企郡西吉見村  
 千葉縣岡津郡中村  
 同縣同郡平岡村

平等寺 大谷 諦隆師  
 平間寺 佐伯 隆運師  
 最教寺 玉川 光倫師  
 寶塔寺 鈴木 俊龍師  
 成就院 船岡 芳仁師  
 蓮華峯寺 田中 敬道師  
 長國寺 榮畑 弘寬師  
 一乘院 吉田 眞榮師  
 壽命院 岡部 快信師  
 三學院 尾住 秀憲師  
 普門寺 田宮 隆寬師  
 總願寺 山口 定道師  
 息障院 芳野 光眞師  
 成願寺 小柴 豐嶽師  
 光福寺 松野 秀海師

同縣同郡大貫村  
 同縣香取郡香取町  
 同縣夷隅郡中川村  
 同縣山武郡豐岡村  
 同縣海上郡旭町  
 同縣匝瑳郡福岡町  
 同縣印旛郡成田町  
 同縣安房郡國府村  
 茨城縣猿島郡神大實村  
 同縣稻敷郡源清田村  
 同縣那珂郡川田村  
 同縣鹿島郡輕野村  
 滋賀縣阪田郡神照村  
 同縣高島郡海津村  
 岐阜縣揖斐郡富秋村

眞福寺 松本 英順師  
 總持院 上杉 堯智師  
 明王院 倉田 光運師  
 地福寺 渡邊 惠秀師  
 眞福寺 平幡 照法師  
 福善寺 林 堯雅師  
 新勝寺 石川 照勤師  
 寶珠院 川名 宥允師  
 延命院 神戸 宥實師  
 勝福寺 岩田 照守師  
 光明寺 石澤 興榮師  
 般若寺 渡邊 定勝師  
 神照寺 小畑 承範師  
 寶幢院 高井 觀海師  
 來振寺 明星 良導師

長野縣松本市和泉町  
 同縣小縣郡上田町  
 宮城縣名取郡下増田村  
 福島縣石城郡赤井村  
 同縣河沼郡笈川村  
 同縣岩瀬郡杵衝村  
 岩手縣氣仙郡氣仙村  
 群馬縣多野郡神流村  
 愛知縣名古屋市門前町  
 山梨縣東山梨郡勝沼町  
 同縣同郡岡部村  
 栃木縣那須郡荒川村  
 同縣芳賀郡祖母ヶ井村  
 同縣宇都宮市塙田町  
 同縣下都賀郡壬矢町

寶幢院 橘 義 豐師  
 宗叡寺 宮本隆範師  
 東光寺 久道周堂師  
 常福寺 旭 純 榮師  
 遍照寺 佐瀬榮輝師  
 長樂寺 井上鐵傳師  
 金剛寺 小林範田師  
 觀音寺 廣瀬義照師  
 寶生院 稻垣心鏡師  
 大善寺 堀内隆詮師  
 大藏經寺 楠 體 本師  
 安樂寺 高野興祥師  
 崇真寺 福田善光師  
 能延寺 寶居弘敬師  
 興生寺 竹村智連師

靜岡縣磐田郡御厨村  
 青森縣弘前市銅屋町  
 秋田縣南秋田郡土崎港旭町  
 福井縣阪井郡三國町  
 和歌山縣那賀郡根生村  
 宮崎縣兒湯郡都於部村  
 愛媛縣松山市唐人町  
 高知縣長岡郡五臺山村  
 山形縣東村山郡長崎町  
 同縣東置賜郡龜岡村  
 同縣東田川郡黒川村  
 熊本縣球磨郡黒肥地村  
 北海道旭川町  
 朝鮮釜山港

醫王寺 松本宥觀師  
 最勝院 鷺尾照堯師  
 正善院 小林梵龍師  
 澁谷寺 大江存良師  
 律乘院 高野能承師  
 黒貫寺 澤村慈光師  
 觀音寺 宮崎智全師  
 竹林寺 船岡芳信師  
 正法寺 村山祐善師  
 大聖寺 正田運猷師  
 法光院 青麻永昌師  
 青蓮寺 愛甲宥敬師  
 眞久寺 久志卓動師  
 金剛寺 見田政照師

## 各派の學士及雜誌

### 學士姓名

古義派。文學士融道玄師。曾我部俊雄師。佐伯慧眼師。古川義天師。佐伯興人師。樹下快淳師。峯堅雅師。大本琢壽師。宮岡隆基師。葦原照道師。桐村賢道師。法學士富海教全師。文學士秋月聖憲師。小笠原有銳師。

豐山派。文學士吉田堯昇師。宮崎榮雅師。神林隆淨師。內藤堯實師。今村寬道師。重柘俊章師。石原惠忍師。川井精春師。杉藤海信師。松崎祐存師。西田快忍師。大岡純雅師。

智山派。文學士大槻快尊師。大谷日宥師。文屋教普師。本田清峻師。蟹江良元師。林光雅師。吉田照堯師。

### 各派の雜誌

六大新報主幹  
眞言主筆

文學士 曾我部俊雄師  
宮崎飛雲師

高野時報主任

密宗學報主筆

加持世界主任

公論主幹

智嶺新報主任

德教會及十善寶窟主任

梅尾密道師

伊豆孤村師

佐藤光峯師

御嶽隆道師

草繫全宜師

## 大典奉祝御修法

眞言宗各宗派聯合法務所に於ては、今回の御大典奉祝の爲め、舉宗一致して、往古の嘉躰に隨ひ、皇室と極めて緊密なる關係を有する、東寺灌頂院に於て、大元帥御修法ある筈にて、松永平之、石堂、椋本の各委員、東寺臨時局に參會して、大元帥御修法萬般の事項に關し、協議の結果、左の如く決定せり。今回は、理性院流にて奉修する事なれば、凡て彼流の古記録に準據して、道場の莊嚴等を爲すは、無論にして、修法に關しては、十月廿九、三十の兩日に亘りて、所謂理性院流の許可を授け、十一月一日に習禮を行ひ、二日の初夜より九日の日中に至る都合二十一座修法し奉るなり。又該御修法承仕用の

衣袈裟は悉く東京目白の吉祥院住職松田僧正單獨にて新調寄附に相成る由又小行事森崎真常師は大元法關伽井の所在地として著名なる大和國秋篠寺に出張し住職堀内瑞雲師の案内にて屋方附一間四方深さ八尺五寸の關伽井に至り透明なる事瑠璃の如き井水を瓶に入れ早速大阪府立衛生試験所に托して、加持香水用關伽水としての適否如何を試験せしめたり。

大元帥御修法大阿闍梨並伴僧交名

大阿闍梨	大僧正	密門宥範
伴僧	大僧正	長有匡
同	同	土宜法龍
同	同	鎌田觀應
同	同	泉智寺
同	同	箸藏善龍
同	同	龍池密雄
同	同	多田實圓

事務員  
同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

別當  
調度係  
會計係  
接待係  
同  
用度  
書記

大正僧寶

權大僧正	權大僧正	鹽崎琢修
同	同	和田大圓
同	同	天野快道
同	同	長谷部實應
中僧正	中僧正	菅原眞照
同	同	鈴木英良
同	同	重松寛勝
中僧正	中僧正	松永昇道
同	同	平之亮禪
同	同	石堂慧猛
權少僧正	權少僧正	百萬盛空
少僧都	少僧都	勝井義英
權少僧正	權少僧正	山本善雅
權大僧都	權大僧都	水上堯禪

道場係

大行事

小行事

承仕

同

同

同

同

同

同

同

權中僧正

椋本龍海

權少僧正

森崎眞常

中僧正

長谷川弘道

權中僧正

佐伯行輝

同

鍬谷禮剛

權少僧正

鈴木憲照

同

松帆諦圓

同

金剛智道

權少僧都

仲田順海

律師

若林照道

### 御大典奉祝紀念出版

眞言宗祖風宣揚會にては、今回御大典奉祝として『皇室と眞言宗』と題する著書を出版する筈にて其著書は主として聯合大學教授石堂慧猛師之に當り目下編輯中なり。

其方針は我が眞言宗が宗祖立教開宗當時より大正の今日に至る迄千有餘年間、皇室と如何に密接深厚の關係を保有しつゝあるかを歴史的に其關係を調査するは勿論、本山并に各地の由緒寺院に現存する繪旨院宣并に信仰に關する御宸翰類に依り鳥瞰的に其關係を表彰する方針にて、其内重なるものを撮影して書中に挿入し、歴代天皇の我が密教に對する御信仰の如何に熱烈なりしかを實證し奉る計畫なり。

## 大正僧寶篇終

大正僧寶

大正四年十一月十四日印刷  
大正四年十一月十七日發行

(上製金五圓)  
特製金六圓 郵税金貳拾四錢

\*\*\*\*\*  
\* 版 權 \*  
\* 所 有 \*  
\*\*\*\*\*

著作兼發行人

小野清秀

東京市小石川區小日向臺町三丁目五十二番地

印刷人

福山福太郎

東京市牛込區西五軒町五十二番地

印刷所

福山印刷製本所

發行所

東京市小石川區  
小日向臺町三ノ五二

大聖社

振替東京二八五九六番

2-3492  
多  
五

### 禿山小野清秀(舊名藤太)著書要目

- 宗教原論 ● 宗教大觀 ● 佛教哲學 ● 眞言哲學 ● 弘法大師傳 ● 大和魂(以上菊版二〇〇頁) ● 起信哲學 ● 佛教倫理學(以上藤川文學士共著 菊版三五〇頁) ● 靈界之紀念 ● 基督教新論 ● 佛教八面觀 ● 國體と宗教 ● 宗教の大綱 ● 學生と宗教 ● 軍人と宗教 ● 労働と宗教 ● 囚人と宗教(以上四六版 二〇〇頁内外) ● 工人聖典 ● 國民聖典 ● 神道教典(以上袖珍特版 三〇〇頁より五〇〇頁) ● 國粹哲學(菊版八) ● 其他大小三十八部

#### 小野清秀(舊名藤太)氏小傳

氏は北豐字佐の人、其先は征西將軍小野好古に出て、母系は菅丞相の直系なり、三十八代連綿たる神職の家に生まれ、幼より苦學し、小中學の教員、土方炭坑あらゆる業務に辛酸を嘗め、後ち法政の學を研究して、一時東京新聞主筆たりしが、明治三十年の頃斷然政界を去りて、宗教の門に入り、神佛佛耶の眞義を窮め、殊に高野山に於ては三年間經堂に籠居して一切經を讀破せり、三十五年東都に歸り、大學林教授等教授の傍ら、宗教研究會を起し、靈界及時代宗教雜誌を獨力發行し、大に時代に伴ふ精神的修養の肝要を唱道し、三十八年には淺草に教堂を新築し、有名なる五博士の大演說開堂式あり、爾來講習會に演說に専らなく、其間又大小四十八部の著述を爲し、人をして其精力の旺盛なるに驚歎せしめたり、四十年には努力教の教規信條を發表し、其九月朝鮮屯田團を組織し、舉家渡韓して、晴耕雨讀の傍ら傳道を勉めたり、氏時に齡漸く不惑、十二歳より今日まで獨立獨歩幾多の艱苦に堪へ、一日の安を食ふことなく、言ふて行はざるなく、行ふて唱へざるなく、言行一致實に精力の権化、努力の神なり云々と。

氏は今や朝鮮の事業大約其目的を達し、兒女教育の都合上家族を再び東京に移し、餘暇を以て或は著述に、或は政治・實業、教育、宗教に健筆と雄辯を揮ひ、興去れば密に農桑に隠れ、悠々自適す……云々。

福莊子識



~~324~~ 188.53  
~~476~~ 0.67

終